

実施機関における
年次評価ヒアリングシート

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート

対象： 環境省

			取組状況	所見
		環境省		
1	実施体制	環境省が設置する委員会など	- 企画評価委員会 - 国際連携委員会 - 戦略広報委員会	
2	予算	予算の計上の状況	<平成24年度業務> - 平成23年度第4次補正予算として約16億円を計上 - 平成24年度当初予算として約45億円を計上 <平成25年度業務> - 平成24年度予備費として約21億円を計上 - 平成25年度当初として約40億円を計上 <平成26年度業務> - 平成25年度補正予算として約10億円を計上 - 平成26年度当初予算案として約47億円を計上。	○ 各ユニットセンターへの予算配分に当たっては、フォローアップ計画や詳細調査計画に基づく適切な配分を行うとともに、ユニットセンターにおける調査実施の積極的取組についても考慮することが望まれる。
3	企画評価	企画評価委員会における審議状況	- 平成25年10月17日（木）平成25年度第1回企画評価委員会を開催 <審議事項> - エコチル調査の実施状況について報告 - エコチル調査の評価の手法について了承	
4	国際連携	国際連携に関する取組状況	- 平成25年度、国際連携委員会を3回開催（8月、10月、2月）。 - 大規模出生コホート調査に関する国際作業グループについては、平成25年度は、第7回（5月、ワシントン）、第8回（8月、バーゼル）、第9回（11月、名古屋）を開催。 - その他、国際学会等に専門家を派遣	○ 海外においても大規模出生コホート調査の準備・検討が進んでいる。エコチル調査は、こうした大規模出生コホートの先駆けとして、国際機関との連携・国際学会等での世界に向けた情報発信等に取り組むことが期待される。
5	広報活動	広報活動に関する取組状況	- 平成25年度、戦略広報委員会4回開催予定（9月、11月、1月、3月）。 - シンポジウム・イベント・記者向け勉強会・エコチル調査ポスターの掲出・ホームページ等による情報提供エコチル調査サポーター登録を行い、エコチル調査の認知度を高め、国民の理解を深める取組を展開することを広報戦略の柱とし、具体的広報活動を展開。 - 毎月の新聞・雑誌記事検索やWEBモニタリングによりエコチル調査の露出度を測定しWebアンケート調査により、エコチル調査の認知状況を把握。	○ 予算・体制の確保のため、また、リクルート率・追跡率の確保・向上のためにも、エコチル調査に関する国民の認知度・理解度の向上が極めて重要である。特に、フォローアップの段階では、参加者自身に、重要な調査に参加しているとの意識を継続して持ち、脱落することなく継続して調査に参加していただくことが重要であることから、調査参加者を対象とした情報発信も積極的に行っていくべきである。さらに、調査の進捗状況や成果に関する情報を、より早く社会に発信するため、コアセンター、メディカルサポートセンターと連携して検討することが重要である。
6	倫理的事項	倫理審査の状況	- 平成22年3月23日 「疫学研究に関する審査検討会」において「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）研究計画書」の審査、「適」判定 - 平成22年8月25日 研究計画書の変更部分について審査、「適」判定 - 平成23年2月1日 研究計画書の変更部分に関して委員持ち回りにて了承された旨報告 - 平成24年8月2日 研究計画書の変更部分について審査、「適」判定 - 平成26年2月21日 詳細調査研究計画書及び詳細調査リクルート用説明書・同意書について審査。	
7	今後の実施方針		- 平成26年3月末のリクルート終了に向けて、10万人の参加者（妊婦）登録を目標にリクルートを継続するとともに、登録された者に対する質問票調査、医師による健康調査、生体試料採取、生まれてきた子どもたちが13歳になるまで脱落することなく、追跡調査に参加できる環境作り等を進めていく。さらに、環境試料（ハウスダスト等）採取等の詳細調査にむけて実施体制の構築を行う。 - 調査の実施にあたっては、参加者への積極的な情報提供に努め、学会や産業界とも連携・協力していく。また、10万組の規模を目指した同様の疫学調査が米国でも計画されており、これら諸外国の調査や国際機関等とも継続して連携していく。	○ フォローアップ期間は、小児科の関係者の協力が必須となる。また、将来的に保育所・幼稚園・小学校の協力を得ることも視野に入れる必要があることから、厚生労働省、文部科学省との情報共有を進め、連携を図るべきである。
8	その他	平成24年度第一次中間評価結果を受けての改善事項や対応状況	○ 調査が所期の成果を収めるためには、長期間にわたる予算と体制の確保が不可欠であり、そのための努力を継続すべきである。その際、平成25年度は、リクルートとフォローアップが重なり、所要の予算額がピークを迎える一方、平成26年度以降は、フォローアップ、詳細調査、化学分析等に重点的に取り組む必要があることを踏まえるべきである。 → 予算の状況について、上記の通り。長期的な予算と体制の確保に今後も努力していく。また、化学分析の加速化のために平成25年度補正予算において10億円を計上した。	○ 調査が所期の成果を収めるためには、長期間にわたる予算と体制の確保が不可欠であり、そのための努力を継続すべきである。平成26年度以降、フォローアップが本格化するとともに、詳細調査、化学分析等に重点的に取り組む必要がある。

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート

対象： 環境省

取組状況			所見
		○ 予算・体制の確保のためにも、また、リクルート率・追跡率の確保・向上のためにも、エコチル調査に関する国民の認知度・理解度の向上が極めて重要である。特に、フォローアップのフェーズでは、参加者において、重要な調査に参加しているとの意識を継続して持ってもらい、脱落することなく継続して調査に参加していただくことが重要であり、広報・啓発活動においてもこうした側面を重視すべきである。このような観点から、調査の進捗状況や成果に関する情報を学術的な成果がとりまとめられる以前の段階で、より早く社会に発信していくことが重要である。 →広報活動については、上記の通り。また、平成25年11月の国際シンポジウム、平成26年1月の3周年シンポジウムにおいて、調査の進捗とこれまでに得られた成果の一部を公表した。	
		○ 全米子ども調査はいまだ準備段階に留まっているが、大規模な出生コホートの代表的事例として引き続き連携を図るべきである。その他の国においても大規模出生コホート調査の準備・検討が進んでおり、エコチル調査は、こうした大規模出生コホートの先駆けとして、引き続き、国際機関との連携・国際学会等での世界に向けた情報発信等に取り組むことが期待される。 →上記の通り、「大規模出生コホート調査に関する国際作業グループ」の会合に参加し、米国をはじめとした他国の出生コホート調査との連携を図るとともに、国際学会等へ出席し海外への情報発信を行っている。	
		○ 各ユニットセンターへの予算配分に当たっては、現実的なリクルート見込み数に見合った適切な配分を行うとともに、ユニットセンターにおける調査実施の積極的取組が報われるよう留意すべきである。 →各ユニットセンターへは、それぞれのリクルート数に応じて必要な予算の配分を行った。	
		○ 「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」が改定されたことを踏まえ、エコチル調査における遺伝子解析の方針を早期に確立する必要がある。その際、東北メディカル・メガバンクを始めとする他のコホート・バイオバンクとの連携を図るべきである。 →エコチル調査における遺伝子解析については、現在コアセンターにおいて計画立案に向けて検討中である。また、東北メディカル・メガバンク全国WGへのオブザーバー参加や、内閣府健康・医療戦略室との連携等、他のコホート・バイオバンクとの情報交換を行っている。	○ エコチル調査における遺伝子解析の方針を早期に確立する必要がある。その際、東北メディカル・メガバンクを始めとする他のコホート・バイオバンクとの連携にも留意する必要がある。
		○ 追加調査（環境省の承認のもとに、ユニットセンターの独自予算で、調査対象者を限定して実施する調査）に関しては、追加調査のその後の進捗状況を環境省としても把握するとともに、その進捗に関する情報や成果等について、発表の場を作り、国民の理解の増進や若手研究者の育成につなげていくことが期待される。 →追加調査等の成果公表に際しては、事前申請を受けて発表内容や進捗状況の把握に努めている。更に、平成26年度環境総合推進費の重要研究テーマ（行政ニーズ）に、「子どもの健康に影響を与える環境要因の解明」を設定し、追加調査をより充実させるよう務めた。	○ 追加調査（環境省の承認のもとに、ユニットセンターの独自予算で、調査対象者を限定して実施する調査）に関しては、追加調査のその後の進捗状況を環境省としても把握するとともに、その進捗に関する情報や成果等について、発表の場を作り、国民の理解の増進や若手研究者の育成につなげていくことが期待される。
		○ 調査参加者の個人情報の紛失事案が発生したことを踏まえ、厳格な個人情報管理を徹底するべきである。 →コアセンター、メディカルサポートセンター及びユニットセンターにおける個人情報管理ルールを取り決めた「エコチル調査における個人情報管理に関する基本ルール」の策定をコアセンターに指示した。	○ 「エコチル調査における個人情報管理に関する基本ルール」を踏まえ、厳格な個人情報管理を徹底するよう、コアセンターを指導すべきである。

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート

対象：コアセンター

		取組状況	所見
		コアセンター	
コアセンター長		川本 俊弘	
1	実施体制	スタッフ数（研究職、事務職等）	研究系職員7名、事務系職員6名、契約研究職員4名等が配属されている。（平成25年12月現在）
		コアセンターの組織体制	●以下の委員会等を設けている。 運営委員会……1 専門委員会……5、分科会……1 協議会……2、ユニットセンター実務担当者会議……1 ワーキンググループ……4 ●組織体制の見直し →解析の準備に向けて、本年度、疫学統計専門委員会を設置した。 →広報コミュニケーション専門委員会の下部にあった倫理問題検討分科会を、倫理問題検討委員会とした。
		メディカルサポートセンター及びユニットセンターとの連携状況	→メディカルサポートセンターとは隔週でweb会議を開催し、情報共有、主要点に関する議論を行い、またメールベースで両センターの意見調整・確認を行っている。 →ユニットセンター連絡協議会、ユニットセンター実務者会議を定期的実施している。
2	リクルート	①リクルート者数（ユニット別・トータル）	資料3 リクルート等進捗状況 を参照
		②同意率（ユニット別・トータル）	
		③声掛け数（ユニット別・トータル）	
		月別（①～③）	
		平成25年度末までのリクルート数見込み	資料3 リクルート等進捗状況 を参照
		カバー率目標の達成見込み	→最終的なリクルート数が出てから、コアセンターで計算する。
3	フォローアップ	質問票・生体試料回収数（ユニット別集計）を踏まえた、これまでの改善状況と今後の課題	●回収の進捗状況 →質問票・生体試料の回収は概ね順調に進捗していると考えている。 ●質問票の回収にあたっての改善事項 →質問票については、未返送者への督促が追加返送の効果を有することが確認されたため、ユニットセンターから少なくとも2回の督促を行うとの基本方針を設定するとともに、今後、増加が予測される住所不明者に対応するため、住民票閲覧・照会の手順を明確にした。 ●生体試料の回収にあたっての改善事項 →生体試料については、回収時のミス・インシデントなどの情報をユニットセンターと共有して、再発防止に努めるとともに、年末年始の生体試料回収についても委託業者と調整を行い、ユニットセンターの希望にできる限り対応した。
		調査票の入力状況（ユニット別集計）を踏まえた、これまでの改善事項と今後の課題	●端末等の増設 →これまで、入力すべき調査票等の増加に対応するために各ユニットセンターに端末・OCRを約2倍に増設するとともに、データ集積速度が増加している状況を踏まえて、主要サーバのメモリ増設を行ってきたところであるが、さらに、個人情報管理に関する基本ルールの運用開始も踏まえた対応として、各ユニットセンター（サブユニットセンター）当たり1台の端末増設の準備を進めている（年度内予定）。 ●システムの改修・その他 →データベースの機能についても、調査の進展への対応や業務効率の向上を図るため、参加者の住所および調査票の送付先の履歴を登録・検索・編集する機能の追加（平成25年3月）、疾患情報登録調査の開始に対応し、質問票データから二次調査が必要な疾患情報を抽出する機能と二次調査票を登録する機能の追加（平成25年9月）を行った。 →一部固定データ作成のためのデータクリーニングの過程で、着実にデータ入力を行うことの重要性をユニットセンターに示した。

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート

対象：コアセンター

			取組状況	所見
		フォローアップ率の見込み (6m、1y)	資料3 リクルート等進捗状況 を参照	
		長期的なフォローアップに関する要改善事項	●全体調査のフォローアップ計画 →全体調査フォローアップ計画については、平成24年3月にVer.1.0を作成したが、その後、調査実施上で明らかになった問題の整理や調査時期・調査事項の見直しを行い、改訂を重ねている（Ver.1.3平成25年10月）。また、6歳以降の計画についても議論を開始する予定である。 ●詳細調査研究計画 →4の詳細調査の項に示すとおり、詳細調査計画書の策定を行った。 →長期的フォローアップにおいて高い追跡率の確保が重要な課題の一つであることから、広報コミュニケーション専門委員会やフォローアップWGにおいて課題と対応について意見交換するとともに、フォローアップ情報交換会を開催（平成25年11月）し、各ユニットセンターでの取組事例について情報交換を行っている。 →また、フォローアップの現状の的確な把握を図るため、各質問票の回収率（登録率）の推移を整理・追跡するための手法を整理し、ユニットセンターに示した。	○ 今後、高い追跡率の確保が最も重要な課題の一つとなることを踏まえ、フォローアップ状況の把握、管理の手法について早急に検討を進め、ユニットセンターに指針を示すとともに、フォローアップの優良事例を各ユニットセンターが共有する機会を引き続き提供することが望まれる。
4	詳細調査	エコチル調査の進捗状況に合わせた検討スケジュール 検討の達成状況	→パイロット調査で医学的検査を試行し、詳細調査での実施可能性を検証している。平成26年度からの調査開始を目指して、パイロット調査の実施結果をフィードバックしながら、平成26年2月3日に詳細調査研究計画を策定した。 →H26年2月に環境省と国立環境研究所の倫理審査を受け、3月末までに各ユニットセンターにおける実行見通しを確認する予定。	○ 平成24年度以降の参加者の子どもが1歳半になる平成26年度から、詳細調査が開始される。詳細調査は、精神神経発達や免疫系、内分泌系への影響、環境ばく露の把握等について、詳細な解析を行う重要な事業であり、ユニットセンターが調査の円滑な実施に向けて、スタッフの確保と研修等の準備期間が十分に取れるよう、スケジュールを調整すべきである。
5	追加調査	追加調査の審査状況	→申請課題数102件 →このうち環境省承認数68件、開始数46件 →本年度、「残余試料の保管」に関する申請を開始した。	

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート

対象：コアセンター

			取組状況	所見
6	委託契約	予算の効率的執行に向けた取組	●一般競争入札によるコストの低減 →予算執行にあたっては、国立環境研究所会計規定等に基づき原則として一般競争入札を実施し、適正な契約を行うと共に、予算の効率的な執行に努めた。 ●各ユニットで共通して必要となる物品の一括購入 →各ユニットで共通して必要となる物品のうち、針刺防止機構付き翼付採血セット（翼状針）、およびOCR用消耗品については、各ユニットで個別に購入するよりも、コアセンターで一括して大量購入した方が値引き率が高く、より安価に購入することが想定された。このため必要数を取りまとめた上でコアセンターで一括購入している。 ●消耗品費・光熱水費の削減 →コアセンターでは機密情報の保護に配慮した上で、表面のみ使用したコピー用紙（裏紙）再利用を励行し、コピー用紙購入量の削減に努めた。また使用する文房具等については、詰め替え等により再利用できるものを購入する、購入したクリアフォルダ、パイプファイル等はできる限り複数回に渡って使用する等し、購入量の削減に努めた。 →さらにクールビズ、ウォームビズを取り入れると共に、不要照明・OA機器の積極的な電源オフを行い、光熱水費の削減に努めている。	
7	その他	平成24年度評価結果を受けての改善事項や対応状況	●リクルート目標の見直し →リクルート開始後2年間の実績と今後の見通しに基づき、平成25年3月に、リクルート目標数の再設定を行った。その際、調査地区周辺の市町村について、調査実施体制を大幅に変更することなくカバー率50%を確保できる見通しがある場合には、調査地区を拡大することとし、2ユニットセンターにおいて各1市を調査地区に追加した。 ●フォローアップ状況の把握、管理手法 →各質問票の回収率（登録率）の推移を整理・追跡することによりフォローアップの現状を的確に捉えることとしたほか、質問票未返送者への督促の基本方針や住所不明者に関する住民票閲覧・照会手順を明確にした。	
			●詳細調査の調査設計 →パイロット調査での医学的検査の実施結果をフィードバックしつつ、詳細調査計画書を策定し、実施体制の構築に向けて調整を進めているところである。 ●遺伝子解析 →エコチル調査における遺伝子解析については、当面、中心仮説に係る解析において重要度の高い遺伝子をリストアップするとともに、倫理的な課題の整理を行うことなど、計画立案の基本方針を平成25年5月に定めた。この方針に沿って、第1次計画の立案に向けた検討を進めているところ。 ●個人情報管理に係る規則 →エコチル調査で扱う情報の機密密度に応じ、管理方法、個人情報等を扱う場所の入退室管理、メール送信の可否、持ち出しの可否等に関する取り扱いを定めた「エコチル調査における個人情報管理に関する基本ルール」を平成25年10月に策定した。 ●体制の強化、システム改修、研修 →エコチル調査における統計的側面に関する事項について検討を行う「疫学統計専門委員会」を設置した。 →データ管理システムを改修し、参加者の住所履歴の登録・検索・編集機能の追加（平成25年3月）、疾患情報の抽出・登録機能の追加（9月）を行った。 →管理者研修（平成25年7月）を実施したほか、RC研修（10月、11月）を実施しているところである。	○ エコチル調査における遺伝子解析について、二つのフェーズに分け、当面、中心仮説に係る解析において重要度の高い遺伝子をリストアップして計画立案を進めるとの基本方針を定めている。第1のフェーズの計画の検討を進め、手法、倫理的事項等について、早急に結論を出すべきである。 ○ 今年度策定した「エコチル調査における個人情報管理に関する基本ルール」を踏まえて、厳格な個人情報管理を徹底するべきである。コアセンター及び各ユニットセンターの個人情報管理が適切であるかどうか、定期的にチェックする体制を構築すべきである。

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート

対象： メディカルサポートセンター

		取組状況	所見
		メディカルサポートセンター	
メディカルサポートセンター長		斎藤博久	
実施体制	メディカルサポートセンター内の体制状況 責任体制、情報共有体制、指揮系統の適切性	●責任体制 →センター長斎藤博久、特任部長大矢幸弘、特任部長補佐北沢博 ●組織体制の構築 →アウトカム測定委員会と2つのWG（詳細調査準備WG、質問票作成WG）、6つのプロジェクト（精神神経発達、内分泌、アレルギー、二次調査検討、小児食事調査票開発、母親健康状態測定・回答マニュアル作成）を設けている。 また、コアセンターを支援する機関として、TSH測定センター、ゲノムコホート支援グループがある。 →各WG長、プロジェクトリーダーが中心となり、定例会議の進行や意見の取りまとめを行い、調査活動を推進している。 →複数のプロジェクトに係る業務については、特任部長または特任部長補佐が全体の指揮をとり情報共有や実施スケジュールの設定・意見取りまとめを行っている。 →各業務の進捗状況を的確に把握し調整を図るために、センター内部で定例ミーティングを設けている。	○ 平成24年度に見直した組織体制をさらに強化し、効率的な工程管理のもと、パイロット調査の質問票の完成時期を早めて、その作成段階からユニットセンターに意見聴取している。詳細調査の検討に当たっても、コアセンターと協力して、パイロット調査において採血等の医学的検査の実行可能性の検討を行うなど、具体的な準備を行いつつ作業を進めていると評価できる。
	スタッフ数 （研究職、事務職等）	→センター長、特任部長、質問票WG長、詳細調査WG長（TSH測定センター長、プロジェクトリーダー兼任）、プロジェクトリーダー3名、研究職9名、事務職6名。 →エコチル事業費による雇用者は、研究職9名および事務職6名	
	コアセンター及びユニットセンターとの連携状況	→コアセンターとは隔週でweb会議を開催し、情報共有、主要点に関する議論を行い、またメールベースで両センターの意見調整・確認を行っている。 →コアセンターと協力し、国際連携の推進を支援している。学会・国際会議への出席を通じて、国内外にエコチル調査の広報を行うとともに、事業推進に有益な情報収集を行っている。 →コアセンターからの依頼に基づき、ユニットセンターの指導等を行っている。H25年度は、採血検査パイロット調査実施に向けて、当センター主催の研修会や出張指導、評価研究等を行った。	
2 全体調査	エコチル調査の進捗状況に合わせた検討スケジュール	●進捗状況 →質問票の原案を質問票WGで作成し、ユニットセンター照会の行ったあと質問票を修正するというサイクルが定着している。質問票調査をパイロット調査で実施→回答の分析→本調査に向けて質問票の修正を行い、質問票を完成するという流れができており、より質が高く、効率の良い質問票作成サイクルが確立できている状況である。 ●進捗の工夫 →より効率よい質問票作成のため、進行方法の変更を行った。 ・全体調査フォローアップ計画に基づき、メディカルサポートセンター内の各専門分野のプロジェクトリーダーへ原案の起案を依頼し、それを取りまとめるかたちで原案を作成した。 ・原案が作成された時点で、全委員で原案を共有し、質問票作成WG前後でメールによる議論を進め、メディカルサポートセンター案の確定とした。 ・パイロットユニットセンターの代表を質問票作成WG委員に追加した。	○ 質問票の作成や詳細調査について、パイロット調査の結果を踏まえ、各ユニットセンターからの意見を吸い上げつつ、効率的に検討を進めていくことが望まれる。フォローアップ期間においては、小児科の関与が重要となる。各ユニットセンターの小児科学教室や地域の小児科医との具体的な連携・協力の確立を引き続き支援していくことが望まれる。
	検討の達成状況	●質問票の検討成果 →質問票作成WGを、H25年度は7回開催した。 →H25年度は、本調査2.5歳質問票、3歳質問票、パイロット調査4.5歳質問票、5歳質問票を作成するスケジュールで、検討を進めており、本調査2.5歳質問票、パイロット調査4.5歳質問票が完成している。また本調査3歳質問票、パイロット調査5歳質問票も予定通り完成するスケジュールで進めている。	

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート

対象： メディカルサポートセンター

			取組状況	所見
3	詳細調査	エコチル調査の進捗状況に合わせた検討スケジュール	●進捗状況 →エコチル調査の進捗に応じ当センターに分担された詳細調査関連業務についてはそれぞれ滞りなく実施達成した。→詳細調査準備WGを3回開催し、年度内にもう1回開催を予定している。	
		検討の達成状況	●検討の成果 →採血検査実施マニュアルの起案および修正 →参加者・スタッフ向けパイロット調査補足資料原案作成 →医師診察記録票の起案および修正 →結果返却様式の起案および修正 →検査項目補足資料作成 →パイロットユニットセンター向けにCLSによる研修会の開催 →パイロットユニットセンターの実施結果を踏まえた採血検査実施マニュアルの改良 →新版K式の実施可能性および検査者間妥当性の検討を実施 →採血検査実施マニュアルの検証および改良を目的に下記研究計画書を倫理委員会に提出（⇒8月に承認） →海外の専門家を交え、臨時会議を開催。神経運動検査の実施項目について決定 →福島UCの地域運営協議会において詳細調査説明のためのプレゼンを4回実施 →詳細調査マトリックスのメディカルサポートセンターに分担された項目について加筆の上、コアセンターに提出	
4	委託契約	予算の効率的執行に向けた取組	●業務委託契約による予算の効率的執行 →時間の有効活用により人件費の削減に取り組んだ。	
5	その他	平成24年度評価結果を受けての改善事項や対応状況	●組織体制 →H24年度に見直した組織体制をさらに強化し、パイロット調査の調査票の完成時期を早めて、その作成段階からユニットセンターに意見聴取するようにした。その結果、より本調査の質問票に近い内容でパイロット調査を行うことが可能となり、パイロット調査の結果を本調査に活かすことができるようになった。詳細調査の設計に関しても、パイロット調査で、実際に採血や診察を行うなど具体的な準備を行いつつ、コアセンターと協力してユニットセンターへの意見聴取を行い、作業を進めている。 ●小児科・産婦人科との連携 →産婦人科に関しては、メディカルサポートセンター産科医長を中心にワーキンググループを構成して連携を図っている。また、メディカルサポートセンターが主催する各種の委員会やワーキンググループにユニットセンターから小児科医が参加し、ユニットセンターの求めに応じ、地域の小児科医との連携支援を行っている。	

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート

対象：北海道ユニットセンター

		取組状況	所見
	ユニットセンター	北海道ユニットセンター	
	大学名（共同機関名）	北海道大学、札幌医科大学、旭川医科大学、日本赤十字北海道看護大学	
	ユニットセンター長	岸 玲子	
	調査対象予定人数	8,250人 →平成24年度の評価を受けて、9,000人から 8,250人に再設定を行った。	
1	実施体制①	特任教員等の人数	特任教員4名、学術研究員2名
		事務職員等の人数	27名
		リサーチコーディネーター（RC）の人数	29名
		医療機関、行政機関等におけるRC認定の状況	該当なし
	実施体制②	ユニットセンターの組織図	●協力医療機関数は 計52。 札幌地区 35（33→35と協力医療機関が2箇所増えた。） 旭川地区 13（すべての分娩を取り扱う病院・医院に協力いただいている。） 北見地区 4 ●毎年度、サブユニットセンターごとに、地域運営協議会を開催している。
		協力医療機関数とそのリスト	
		地域運営協議会メンバー	
		地域運営協議会開催状況	
2	改善内容	平成24年度評価結果を受けての改善事項や対応状況 ①昨年度の評価を受け、それまでのリクルート実績から達成可能なリクルート予測を行い、9,000人から8,250人へ再設定を行った。 ②調査地域は、拡大せず、現状のままで、リクルート率を上げる努力を行った結果、直近1年の地域カバー率は札幌40%、旭川39%へ上昇した。	
3	リクルート	リクルート者数	6,766名（平成25年9月30日現在） →平成26年3月末までのリクルート数は 8,250名前後となる見込み
		調査対象予定人数達成が見込まれる年月	2014年3月31日
		同意率・カバー率	同意率：78%（直近1年） カバー率：41%（直近1年、同意数／母子健康手帳発行数） 札幌 40.1% 旭川 38.6% 北見 48.2% 2011年2月～2012年3月までのカバー率は、28.3%であった。 2012年4月以降各地区において、行政窓口と医療機関リクルートの連携、紹介カードの導入等、改善策を実施した。その結果、2012年4月～9月では、カバー率34.4%に増加した。 さらに2012年5月から開始した旭川地区での市役所リクルートが軌道に乗り、2012年10月～2013年3月のカバー率は40%となった。 2013年4月以降も、カバー率40%を超える状態を維持している。
		声掛け数	3,912人（直近1年）
		年間出生数（直近1年）	7,417人
		地域・月・医療機関別参加者数	●リクルート方法 母子健康手帳交付窓口と医療機関でのリクルートの併用。 ●カバー率、応諾率向上等のための工夫 →紹介カード制度の導入による声かけ率、同意率向上 紹介カードを調査説明パンフレットに添付し、医療機関スタッフから対象妊婦への配布を依頼した。紹介カード持参の妊婦には粗品を、医療機関には声かけの医療機関謝金を支払うようにした。
		リクルート方法（医療機関、行政窓口等）	→行政窓口と医療機関リクルートの連携 全対象妊婦への声掛けの工夫を各地域で行っている。
		カバー率、応諾率向上等のための工夫	→ユニット内3地区の交流や情報交換の活性化 月に1回WEB会議を実施。

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート

対象：北海道ユニットセンター

		取組状況	所見
4	フォローアップ	月別質問票回収率(6m, 1y, 1.5y) ●質問票回収率 →6mで93%、1yで90%、1.5yで87%。 →質問票未提出者(6m以降)に対して督促ハガキを郵送、督促による効果が認められた。 →質問票発送日より2.5～3か月経過後に督促していたが、今後は3週間経過した時点で、督促を行うまでの期間を短縮した効果を確認した上で、次の対策を考えることにしている。	
		月別質問票発送数(6m, 1y, 1.5y) ●質問票発送数 →6mで2,646、1yで1,553、1.5yで597。	
		月別質問票回収数(6m, 1y, 1.5y) ●質問票回収数 →6mで2,457、1yで1,402、1.5yで522。	
		生体試料回収数 ●生体試料回収数 →M-T1:6,168人、M-T2:5,844人、M-0m:4938人、M-1m:4362人、F-T1:1,864人、C-0m:4,808人、C-1m:4,496人。	
		フォローアップ維持のための工夫 ●フォローアップ維持のための工夫 →父親参加者を増加させる取り組みとして、札幌駅隣接の健診センターにおいて、2012年7月から父親採血を開始した。	
5	研修	スタッフ研修状況(頻度、内容) スタッフ全員対象の情報提供を、計17回実施しており、北海道内WEB会議を通じてサブユニットにも伝達している。	
6	広報活動実績	特徴ある広報活動 →北見地区独自に、地域連絡協議会のメンバーに定期的にメール配信による進捗状況報告や事務連絡を行い、連携強化を図っている。 →メール配信により、調査進捗報告や講演会などの告知を行う体制を構築中。	
	認知度の効果測定等(実施している場合)	→エコチル調査の中心がリクルートから、フォローアップに移行する。今後の広報活動も、エコチル調査を多くの人に知ってもらおうと取り組みから、協力継続を促すための活動に移行する。 →今後の目標として、リクルート時には産科が中心であったが、今後は小児科が中心となり、さらに疾患情報登録調査ではその他の多様な診療科の協力が必要である。これまでほとんどエコチル調査とはかかわりがなかった医師・看護師等へのPRを実施する。	
7	その他	その他 特記事項なし。	
8	個人情報	個人情報管理 特記事項なし。	
9	現場確認	①データシステムの設置場所、PCのセキュリティ対策 ②同意書の保管場所 ③質問票の保管場所 ④入退室管理方法 ⑤その他の情報漏洩対策 特記事項なし。	

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート

対象：宮城ユニットセンター

		取組状況	所見
	ユニットセンター	宮城ユニットセンター	
	大学名（共同機関名）	東北大学	
	ユニットセンター長	八重樫 伸生	
	調査対象予定人数	9,900人 →平成24年度の評価を受けて、9,000人から 9,900人と目標を引き上げた。	
1	実施体制①	特任教員等の人数	5名（特任教員）＋5名（協力教員）
		事務職員等の人数	5名
		リサーチコーディネーター（RC）の人数	50名
		医療機関、行政機関等におけるRC認定の状況	→内訳 宮城UCのRC： 33名 協力医療機関スタッフのRC： 17名
	実施体制②	ユニットセンターの組織図	●協力医療機関数は 24。
		協力医療機関数とそのリスト	●平成25年度の地域運営協議会は、平成25年12月～平成26年2月に開催予定。
		地域運営協議会メンバー	
		地域運営協議会開催状況	
2	改善内容	平成24年度評価結果を受けての改善事項や対応状況	①リクルート目標数について、当初目標値 9,000人のところ、9,900人という新目標値を掲げたところである。しかし、本年4月以降の説明数の推移を見てみると、漸減傾向が観察され（同意率は変わらない）、実際の登録数も漸減している。さらに、本学東北メディカル・メガバンク機構の調査開始事情もあり、登録期間は、気仙沼、石巻、岩沼を平成25年10月末までとし、大崎地区を平成26年3月までと設定した。このため、実際の到達点は、9,400～9,600の間になるのではないかと考えられる。なお、説明数の減少は、エコチル調査側の要因ではなく、被災地域全体における人口減（特に若い年齢層の減少）によるものと思われる。 ②OCR入力作業については、平成25年5月体制強化を行い、週70時間に相当するスタッフを新たに配分し作業を進めている。このためOCR入力状況は改善しつつあり、年度内に解決達成の予定である。
3	リクルート	リクルート者数	約8,374名（平成25年9月30日現在） 3,052人（直近1年。平成24年10月～平成25年年9月） →平成25年10月31日より石巻、気仙沼、岩沼医療圏の登録を終了する。 平成25年11月以降は、大崎医療圏のみのリクルートとなるが、月間160名の登録を見込んでいる。
		調査対象予定人数達成が見込まれる年月	2014年3月31日 →9,443名。
		同意率・カバー率	②同意率：83.8% カバー率：63%（直近1年。3,052/4,817（H24概算出生数））
		声掛け数	3,642人（直近1年）
		年間出生数（直近1年）	4,817人
		地域・月・医療機関別参加者数	●リクルート方法 医療機関にRCを常駐させ、適格要件を満たす調査候補者（妊婦）に対し、「リクルートマニュアル」に基づき、説明文書を用いてインフォームド・コンセントを行っている。
		リクルート方法（医療機関、行政窓口等）	●カバー率、応諾率向上等のための工夫 ・医療機関の人員配置及びリクルートに至る説明等を見直し参加者の獲得を図っている。 ・医療機関窓口にて、参加者の声を集めたDVDを昨年に引き続き流し、応諾率が向上するように工夫を行った。 ・自治体窓口でもパンフレットを渡し、声掛けについて依頼している。
		カバー率、応諾率向上等のための工夫	
			○ 昨年度に引き続き、リクルートは極めて順調に行われおり、カバー率も63%と高い水準を達成してる。 ○ 平成25年10月末で、4つある調査対象地域のうち3地域においてリクルートを終了した。それにもかかわらず、現状のまま推移すると、平成25年度末までに当初のリクルート目標数を上回る数を達成できる見込みである。

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート

対象：宮城ユニットセンター

		取組状況	所見
4	フォローアップ	月別質問票回収率(6m, 1y, 1.5y) ●質問票回収率 →6mで90%、1yで82%、1.5yで68%（平成24年10月から平成25年6月まで発送・回収数）。 →督促1回目はがき発送、督促2回目封書発送している。 →カバー率が高いだけに、質問票回収率が悪いと分析している。	○ 1歳6ヶ月の質問票の回収率が、他のユニットセンターと比較して低い傾向にあり、留意する必要がある。
		月別質問票発送数(6m, 1y, 1.5y) ●質問票発送数 →6mで2,442、1yで2,234、1.5yで1,103 ●質問票回収数 →6mで2,209、1yで1,830、1.5yで747	
		月別質問票回収数(6m, 1y, 1.5y) ●生体試料回収数 →M-T1:7,251人、M-T2:7,495人、M-0m:6,956人、M-1m:6,094人、F-T1:3,598人、C-0m:6,867人、C-1m:6478人。	
		生体試料回収数 ●フォローアップ維持のための工夫 ・1か月健診時に配布するお知らせの発行。 内容は、1か月健診後の調査予定、スギ花粉調査結果、他。 ・グッズ カーステッカー : 出産後の対象者に配布 ガーゼハンカチ : 2歳時の参加者へ送付 絆創膏 : 住所変更後の住所確認の封書に同封 ・エコチル専任の小児科医のポストを確保している。	
		フォローアップ維持のための工夫	
5	研修	スタッフ研修状況 (頻度、内容) 平成26年1月に、宮城ユニットセンタースタッフ約35人のアドバンスド研修を予定している。 (2014年2月27日追記： 実際には、大雪警報で交通機関が麻痺のため、20名で実施した)	
6	コミュニケーション	広報活動実績 平成25年度の新たな広報活動 →参加者向けニュースレターの発行 創刊号：平成25年4月1日発行 掲載内容：MUCの紹介、妊婦さんスギ花粉のIgE陽性率の状況、全国UCのキャラクターの紹介 2歳児用：平成25年7月～ 掲載内容：MUCスタッフの2歳児育児相談、調査集計結果 →プレスリリース 登録予定数の9,000人を達成したことをテレビ・新聞・ラジオ等で本ニュースを配信する。	
		認知度の効果測定等 (実施している場合)	
7	その他	その他 特記事項なし。	
8	個人情報	個人情報管理 独自の管理システムにより個人情報管理がなされているが、さらに、コアセンターが示す基本ルールに沿うよう調整中。	
9	現場確認	①データシステムの設置場所、PCのセキュリティ対策 ②同意書の保管場所 ③質問票の保管場所 ④入退室管理方法 ⑤その他の情報漏洩対策 特記事項なし。	

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート

対象：福島ユニットセンター

		取組状況	所見
ユニットセンター		福島ユニットセンター	
大学名（共同機関名）		福島県立医科大学	
ユニットセンター長		橋本 浩一	
調査対象予定人数		15,900人	
1	実施体制①	特任教員等の人数	3名
		事務職員等の人数	29名（福島15名＋郡山14名）
		リサーチコーディネーター（RC）の人数	45名（福島6名＋郡山39名）
		医療機関、行政機関等におけるRC認定の状況	●医療機関、行政機関等におけるRC認定の状況：480名（累積）（うち、行政機関は31名）
	実施体制②	ユニットセンターの組織図	●協力医療機関数は 52。 →相双地区の6医療機関はリクルートを一時中断中。
		協力医療機関数とそのリスト	
		地域運営協議会メンバー	●地域運営協議会をH25年度は5回開催（予定）。 →福島県、県中・県南、会津、県北・相双、いわきの5地域運営協議会を開催／開催予定。
		地域運営協議会開催状況	
2	改善内容	平成24年度評価結果を受けての改善事項や対応状況 ①従来の調査地域と拡大地域に分けないリクルート目標として設定することとなり、目標数は、それまでの実績を踏まえ、当初の15,900人で変更なしとした。 ②すべての適格者へ声かけできるように、声掛け方法を改善し、協力医療機関の状況・要望に応じて、RC派遣形態の見直し（巡回→常駐方式など）等を実施してきた。 ③現時点での平成26年3月末のリクルート見込数は、約13,000人。	
3	リクルート	リクルート者数	9,465人（9月30日時点）
		調査対象予定人数達成が見込まれる年月	平成26年3月までの達成は困難である。 平成25年4月～9月の実績を基にすると、達成が見込まれるのは、平成26年8月となる。
		同意率・カバー率	②同意率：79.2%（直近1年） カバー率：49.1%（相双地区を除くと、51.6%）
		声掛け数	9,615人
		年間出生数（直近1年）	14,313人
		地域・月・医療機関別参加者数	●リクルート方法 →協力医療機関の産科ですべて実施。 →母子健康手帳交付時に声掛けをしてもらうよう依頼している。窓口での声かけ→医療機関での医師によるより詳しい説明、が最も良い流れである。
		リクルート方法（医療機関、行政窓口等）	→県北（16医療機関）はすべてRC巡回、県中（11医療機関）は4か所がRC巡回、残りは常駐、県南（4医療機関）は1か所RC巡回、残りは常駐、会津（4医療機関）は1か所RC巡回、残りは常駐、相双（8医療機関中6か所は中断中）は1か所RC巡回、いわき（9医療機関）は2箇所RC巡回、残りは常駐。
		カバー率、応諾率向上等のための工夫	→常駐の場合、RCの担当は決められている。 ●カバー率、応諾率向上等のための工夫 →なるべく即同意をもらうようにしている。 →UCの医師から、医療機関の医師へ、声掛けをいただけるよう依頼している。 →エコチル調査の認知度を高めるようにしている。 →毎月、協力医療機関及び市町村に対し、個別に実績を報告している。

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート

対象：福島ユニットセンター

		取組状況	所見
4	フォローアップ	月別質問票回収率(6m, 1y, 1.5y) ●質問票回収率（平成24年8月から平成25年7月までの発送・回収数） →6mで96%、1yで93%、1.5yで92% (催促前は、それぞれ、79%、75%、71%) 月別質問票発送数(6m, 1y, 1.5y) ●質問票発送数 →6mで1,581、1yで1,429、1.5yで782 ●質問票回収数 6mで1,510、1yで1,325、1.5yで720 月別質問票回収数(6m, 1y, 1.5y) ●生体試料回収数（平成24年10月～平成25年9月） →M-T1: (採血) 5,587, (採尿) 5,580 →M-T2: (採血) 5,369, (採尿) 5,364 →M-0m: (臍帯血) 4,357, (採血) 4,395, (母親毛髪) 4,399, (ろ紙血) 4,368 →M-1m: (母乳) 3,717, (児毛髪) 3,959 →F-T1: (採血) 3,448 生体試料回収数 ●フォローアップ維持のための工夫 →催促は、発送後1か月でメールにて連絡し、また1か月たつと、催促ハガキを出す。 ただ、督促するだけでなく、日頃の参加への感謝や、困っていることはないか、と聞くようにしている。また、困った時はいつでも連絡してほしい旨伝えている。 →調査票で気になる内容があった場合、電話し近況や子育てについて困っていることはないか確認・お話しする。 →自己の進行管理用のエコチルチェック票を母子健康手帳に挟んで渡している。 →謝金支払の際、かわいいイラスト付きの子育て中のワンポイントアドバイスをに入れて送っている。 フォローアップ維持のための工夫	○ 生後6か月、1歳および1歳6か月の質問票の回収率がいずれも90%以上であり、回収は順調に進められている。
5	研修	スタッフ研修状況（頻度、内容） ●平成25年度 4回実施 第1回5月12日（日）、第2回7月21日（日）、第3回9月1日（日）、第4回12月8日（日）（予定） ●内容 基本的なビジネスマナー、コミュニケーション。 学んだ知識を実践で活用出来るよう、リクルート時、クレーム時の電話対応等の、ロールプレーや、職場でのチーム力アップ、モチベーションアップのための、意見交換、情報を共有、提供をし合うためのグループワークを行った。	
6	コミュニケーション	広報活動実績 ・参加者向けニュースレター年2回発行を予定（H25年度は9月にすでに刊行済み） ・タウン誌にコラムおよび広告を掲載（隔月） ・地元紙のテレビ欄に毎月1回7日連続掲載。 ・ラジオにスポットCM、番組提供。 ・エコチルコンサート、よみきかせ、ふれあい会の実施。 認知度の効果測定等（実施している場合） →ふれあい会は、6か月の子どもを対象に、30組／回の開催で、現在は福島地区だけの開催だが、キャンセル待ちが出る程大盛況である。今後拡大地区でも行っていくたい。 →子どもが1歳までは、母親が育休をとっているため、イベントへの参加は比較的多いが、今後はこれまでより難しくなることが予想される。そのため、参加へのインセンティブが働くよう工夫が必要だと考えている。	○ 参加者への催促を含む連絡時の対応における工夫や、参加者の参加意欲を高めるイベントの開催など、積極的にコミュニケーション活動を進めていることが評価できる。
7	その他	特記事項なし。	
8	個人情報	独自の管理システムにより個人情報管理がなされているが、さらに、コアセンターが示す基本ルールに沿うよう調整中。	
9	現場確認	①データシステムの設置場所、PCのセキュリティ対策 ②同意書の保管場所 ③質問票の保管場所 ④入退室管理方法 ⑤その他の情報漏洩対策	

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート

対象：千葉ユニットセンター

		取組状況	所見
ユニットセンター		千葉ユニットセンター	
大学名（共同機関名）		千葉大学	
ユニットセンター長		森 千里	
調査対象予定人数		6,400人	
1	実施体制①		
	特任教員等の人数	11名（特任助教3名、特任研究員8名）	
	事務職員等の人数	15名（事務7名、データ入力8名）	
	リサーチコーディネーター（RC）の人数	18名	
	医療機関、行政機関等におけるRC認定の状況	●協力医療機関数は22機関 →H25.10に1機関閉院するが、協力医療機関の分院が1機関開院する予定。	
2	実施体制②		
	ユニットセンターの組織図	●地域別に地域運営協議会を開催 →調査対象地域が広範囲にわたるため、「千葉地区」「君津地区」「安房・夷隅地区、一宮町」に地区を分け、年一回それぞれの地区に出向いて、地区ごとに協議会を開催している。	
	協力医療機関数とそのリスト		
	地域運営協議会メンバー		
3	改善内容	①当初、協力を断られた医療機関に再度協力依頼を試みたが、承諾が得られなかった。 →木更津市では、1月からRCの派遣を開始し、母子手帳交付時に参加登録できるようにした。 →9月から君津市でもRC派遣を開始し、母子手帳交付時に参加登録できるようにした。 ②データシステム入力体制を見直し、すべての質問票を滞りなくシステムに入力できるようにした。	
	リクルート		
3	リクルート者数	5,031人（9月30日時点）	○ 平成24年度の第一次中間評価における指摘事項を受け、母子健康手帳交付時に参加登録できるようにしてリクルートの進捗状況を改善したことが評価できる。
	調査対象予定人数達成が見込まれる年月	2014年5月末 →3月末まで広報やリクルートを行い、参加希望者を5月末まで受け入れる予定。 →3月末だと目標数に300～400人不足する。5月末までに300人の追加を見込んでいる。	
	同意率・カバー率	同意率：73%（コアセンターのシステム登録数による） カバー率：40%	○ 第一次中間評価を受けて、リクルート目標数を現実的に達成可能な数に見直した。現状のまま推移すると、平成25年度末までのリクルート数は、修正後のリクルート目標数の94%程度となる見込みである。カバー率は40%程度と予想される。
	声掛け数	3,800人（9月30日時点の年間声掛け数） →自治体が窓口で声を掛けることから、出生数÷声かけ数として推定。	
	年間出生数（直近1年）	4,947人（直近1年） →震災後、県の西に人口が移動し、出生数が減っている。	
	地域・月・医療機関別参加者数	●リクルート方法 ・自治体窓口でパンフレットを配布し、説明を行っている。 ・医療機関では、医療機関スタッフや派遣したRCが説明を行う。 ・対象地域以外の医療機関にかかる人に対しては、その医療機関にRCを派遣したり、電話で説明を行う。	
リクルート方法（医療機関、行政窓口等）			
カバー率、応諾率向上等のための工夫		●カバー率、応諾率向上等のための工夫 ・RC派遣が可能な医療機関では、RCが調査説明を行っている。 ・妊婦の負担を軽減しつつ、効率よく、対象者がRCから説明を受けられるように、医療機関と相談を重ねている。 ・院内にRCが常駐できない医療機関で説明を希望する妊婦が来院する場合には、RCが妊婦の健診日時に合わせて医療機関を訪問して説明を行う。 ・千葉市緑区では、母子手帳受け取り時に電話連絡を承諾した妊婦に電話連絡を行い、質問への対応や同意書提出を促している。 ・木更津市では保健相談センターでの母子健康手帳交付一本化に伴い、保健相談センターにRCを常時派遣し、調査説明と参加登録を行う体制にした。 ・君津市でも、RCを常駐させ、調査説明と参加登録を行う体制を開始した。	○ 父親のリクルート率は64%であり、他のユニットセンターと比較すると高水準にある。

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート

対象：千葉ユニットセンター

		取組状況	所見
4	フォローアップ	月別質問票回収率(6m, 1y, 1.5y) ●質問票回収率(平成25年6月末までに発送し、平成25年7月末までに回収した数) →6mで92%、1yで88%、1.5yで79%。 ●質問票発送数(平成25年6月末までに発送し、平成25年7月末までに回収した数) →6mで2,514、1yで1,464、1.5yで612。 ●質問票回収数 →6mで2,311、1yで1,289、1.5yで483。 ●生体資料回収数 →M-T1の生体試料で88%（コアセンターのシステム登録数による）。 ●フォローアップ維持のための工夫 →質問票発送から9か月未提出時に、手紙を郵送。督促ではなく、「返事がないので心配している」というニュアンスの内容としている。 →生後1か月までの質問票・お名前調査票がすべて提出された参加者に、プレゼントを実施。督促にも反応がない参加者からの質問票回収率がアップした。1歳6か月以降も続けられないか検討中。 →年2回「ちばエコチルつうしん」をすべての参加者に郵送、子育てや妊婦の健康管理に役立つ情報等を配信している。 →月1回、対象地域を月替わりで巡回し、参加者向けの子育て講演会、講習会を実施している。来年以降、大きなイベントの開催も視野に入れている。	○ 平成24年度の第一次中間評価における指摘事項を受け、データシステム入力体制を見直し、すべての質問票を滞りなくシステムに入力できるようにしたことが評価できる。
5	研修	スタッフ研修状況(頻度、内容) ●研修状況 →2か月に1回、スタッフ全員が参加する全体ミーティングを開催。 →必要に応じて、各地に出向いたり、RC研修を実施している。 →コアセンターの研修は、RC同士の情報交換ができるので、役に立っている。 →今後は詳細調査に関する研修を希望する。	
6	コミュニケーション	広報活動実績 ●広報活動で工夫している点 →広報専任スタッフを配置して、ホームページなどを充実させている。 →TV、ラジオには調査対象地域に特化した媒体がないので、折込チラシに力を入れている。 →ユニットセンターの公用車にラッピングして広報している。 →イベントのアンケートで、エコチル調査を知っていたかどうかを聞いて、認知度を把握している。 認知度の効果測定等(実施している場合)	
7	その他	その他 特記事項なし。	
8	個人情報	個人情報管理 独自の管理システムにより個人情報管理がなされているが、さらに、コアセンターが示す基本ルールに沿うよう調整中。	
9	現場確認	①データシステムの設置場所、PCのセキュリティ対策 ②同意書の保管場所 ③質問票の保管場所 ④入退室管理方法 ⑤その他の情報漏洩対策 特記事項なし。	

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート

対象：神奈川ユニットセンター

		取組状況	所見
ユニットセンター		神奈川ユニットセンター	
大学名（共同機関名）		横浜市立大学	
ユニットセンター長		横田 俊平	
調査対象予定人数		6,650人 →平成24年度の評価を受けて、6,000人から 6,650人と目標を引き上げた。	
1	実施体制①	特任教員等の人数	1名
		事務職員等の人数	11名
		リサーチコーディネーター（RC）の人数	11名 →フルタイム7名、パートタイム4名 →うち、看護師3名。看護師2名は、カルテ転記に専念している。 →RCの定着率は、非常に高い。
		医療機関、行政機関等におけるRC認定の状況	●RC認定状況は累積で65名
	実施体制②	ユニットセンターの組織図	●協力医療機関数は 16。 →調査地域内の分岐施設はすべて網羅している。
		協力医療機関数とそのリスト	→リクルート数伸び悩みを受けて、新たに金沢区で3か所協力医療機関、大和市で1か所協力医療機関を追加して、リクルート数が増加した。
		地域運営協議会メンバー	●年1回、年度末に地域運営協議会を開催。
		地域運営協議会開催状況	今回は、平成26年2月5日開催予定。 議題は、年度報告と次年度計画を予定している。
2	改善内容	平成24年度評価結果を受けての改善事項や対応状況	①スタート当初6,000人が目標であったが、平成24年度の評価を受けて、6,650人を神奈川ユニットセンターの目標とした。
3	リクルート	リクルート者数	5,349人（9月30日時点）
		調査対象予定人数達成が見込まれる年月	2014年3月31日 →6,650人の目標達成は難しいが、6,500人は達成したい。
		同意率・カバー率	②同意率：87% カバー率：49%（平成25年） 36%（平成25年9月30日時点の調査期間中）
		声掛け数	6,182人（9月30日時点） ※声掛け数は、協力医療機関スタッフによる声掛け数を把握できないため、同意＋不同意数。
		年間出生数（直近1年）	2,139人
		地域・月・医療機関別参加者数	●リクルート方法 協力医療機関のみ
		リクルート方法（医療機関、行政窓口等）	●カバー率、応諾率向上等のための工夫 平成24年度に比べて、リクルート数が若干減少しているため、目標達成は厳しい状況にある。今後、協力医療機関を追加するなどしてもリクルートするための環境づくりの負担が大きく、医療機関の追加などは行わない。現在の医療機関を受診した該当者を見逃さずにリクルートできるよう協力医療機関との連携をさらに高めるなどの努力をし、目標達成にできるだけ近づけるようにしていく。
		カバー率、応諾率向上等のための工夫	

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート

対象：神奈川ユニットセンター

		取組状況	所見
4	フォローアップ	月別質問票回収率(6m, 1y, 1.5y) ●質問票回収率(平成25年4月22日までに発送した質問票の発送・回収数) →6mで96%、1yで94%、1.5yで92%。 →質問票を発送し、その6か月後時点で、回収率を計算している。	○ 生後 6か月、1歳および1歳6か月の質問票の回収率がいずれも90%以上であり、回収は順調に進められている。
		月別質問票発送数(6m, 1y, 1.5y) ●質問票発送数(平成25年4月22日までに発送した質問票の発送・回収数) →6mで1,999、1yで987、1.5yで317。	
		月別質問票回収数(6m, 1y, 1.5y) ●質問票回収数(平成25年4月22日までに発送した質問票の発送・回収数) →6mで1,929、1yで927、1.5yで291	
		生体試料回収数 ●生体試料回収数 →M-T1:4,489人、M-T2:4,488人、M-0m:4,252人M-1m:3,551人、F-T1:1,987人	
		フォローアップ維持のための工夫 ●フォローアップ維持のための工夫 質問票未提出の参加者に対しては、色々な方法を検討したが、現在は2か月後にショートメール（携帯電話番号の登録がない人は電話連絡）をし、3か月後にはがきを出している。はがきは転送不可で発送し、住所変更している人がいないかも併せて調査している。 リクルート時・出産時・1歳誕生日と、お祝い時などにグッズを渡し、リクルート数の向上やフォローアップ率向上に使用している。今後のお祝いなどは参加者からも意見を聞き、フォローアップ率向上につなげるようグッズを提供していけるようにしたい。	
5	研修	スタッフ研修状況(頻度、内容)	
6	コミュニケーション	広報活動実績 ●エコチル育児相談 →地域の育児支援センターに月に1度小児科医を派遣。育児についての相談などに答えている。質問内容を蓄積しまとめたものを、エコチルだけにではなく「小児科医への教科書」としてや「母親への教育」のためなど、幅広く活用できたらよいと考えている。調査参加者が参加してよかったと思えることが重要。	
		認知度の効果測定等(実施している場合) ●エコチルかながわ通信 →2か月ごと。リクルート対象者に向けて、発行。(平成26年度以降も継続) ●地域情報誌タウンニュース ●FMラジオ放送 ●駅貼りポスター	
7	その他	その他 ●協議会には、研究者だけではなく、参加者の代表も出席してもらい、一緒に議論を進めるべきである。13年間協力してもらうには、参加者が小児科医とともに子供の健康を考えていく体制を整えるべきと考える。	○ 調査参加者をエコチル調査地域運営協議会に参加させるという独自の取組が行われたが、他に例のない試みであったこともあり、運営方法に改善すべき点が見受けられた。
8	個人情報	個人情報管理 特記事項なし。	
9	現場確認	①データシステムの設置場所、PCのセキュリティ対策 ②同意書の保管場所 ③質問票の保管場所 ④入退室管理方法 ⑤その他の情報漏洩対策 特記事項なし。	

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート

対象：甲信ユニットセンター（山梨大）

			取組状況	所見
ユニットセンター			甲信ユニットセンター	
大学名（共同機関名）			山梨大学	
ユニットセンター長			山縣 然太郎	
調査対象予定人数			4,590人 →平成24年度の評価を受けて、4,488 から4,590と目標を引き上げた。	
1	実施体制①	特任教員等の人数	5名	
		事務職員等の人数	7名	
		リサーチコーディネーター（RC）の人数	16名 →各協力医療機関に1～2名配置	
		医療機関、行政機関等におけるRC認定の状況	●協力医療機関数は13機関	
	実施体制②	ユニットセンターの組織図	●月1回、甲信エコチル調査企画・運営会議を実施。 →WEB会議により、山梨大学・信州大学で協議する場を設けている。	
		協力医療機関数とそのリスト	●年2回、地域運営協議会を開催 →1回は山梨部会、1回は信州部会を兼ねる。	
		地域運営協議会メンバー		
		地域運営協議会開催状況		
2	改善内容	平成24年度評価結果を受けての改善事項や対応状況	①当初4,488人がリクルート目標であったが、平成24年度の評価を受けて4,590人とした。調査地域の拡大を具体的に検討したが、RC及び協力医療機関の負担増と、対象地域を拡大した場合のリクルート見込み数とのバランスを勘案し、最終的に調査地域の拡大は見合わせた。 ②本年度は1ヶ月122.5人を目標にリクルート活動を展開し、9月末時点での目標達成率は100%となっている。 ③10月、11月のリクルート数が落ち込んでいることから、平成26年3月時点で、目標数の±5人程度になると見込んでいる。	
3	リクルート	リクルート者数	3,855人（9月30日時点）	○ 昨年度に引き続き、リクルートは順調に行われている。 ○ 平成24年度の第一次中間評価を受けて、全国10万人の目標に向けて寄与するため、リクルート目標数を引き上げた。現状のまま推移すると、平成25年度末時点で、引き上げ後のリクルート目標数を達成できる見込みである。カバー率も59%という高い水準になるものと予想される。 ○ 父親のリクルート率は61%であり、他のユニットセンターと比較すると高水準にある。
		調査対象予定人数達成が見込まれる年月	2014年3月	
		同意率・カバー率	同意率：81% カバー率：59%（2012年出生数より算出）	
		声掛け数	4,741人（9月30日時点）	
		年間出生数（直近1年）	2,575人（2012年）	
		地域・月・医療機関別参加者数	●リクルート方法 ・4市の母子健康手帳交付窓口と、7の協力医療機関にRCを配置し、調査の説明と同意取得を行う。 ・自治体窓口の場合、交付日当日にRCを派遣。 ・協力医療機関では、RCが電子カルテ等を閲覧し、対象地域に住んでいる妊婦の受診予約状況を確認し、計画的にICを実施。 ・また、クリニックに週に1回、RCを派遣して、自治体窓口での声かけに漏れてしまった妊婦へのICも行っている。 ・主治医の声かけが最も効果的であり、また、保留にさせないことが重要。	
		リクルート方法（医療機関、行政窓口等）	●カバー率、応諾率向上等のための工夫 ・RCが常駐している病院の事務・管理部門と交渉し、RCが電子カルテや医療情報を閲覧できる仕組みを構築した。 ・自治体窓口では、RCがいない日に申請に来た対象妊婦にも調査への参加を促すため、甲信ユニット独自に「エコチル調査RCへの個人情報提供同意書」を作成し、活用している。また、エコチルコーナーへ誘導するための「寄ってねカード」を2012年度から導入している。 ・RCが説明補助資料を、それぞれのipadに保存し、ICの際に活用している。 ・病院ではできるだけ個室に近いスペースを確保し、ICの環境づくりに関する工夫をしている。 ・月1回、RC情報交換会を開催し、全RCが顔を合わせる機会を設けている。 ・毎週月曜日、前週のリクルート数集計をメーリングリストで流し、全員で情報を共有できる仕組みを構築している。	
		カバー率、応諾率向上等のための工夫		

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート

対象：甲信ユニットセンター(山梨大)

		取組状況	所見
4	フォローアップ	月別質問票回収率(6m, 1y, 1.5y) ●質問票回収率 →6mで93%、1yで87%、1.5yで84% ●質問票発送数 →6mで1,596、1yで905、1.5yで257 ●質問票回収数 →6mで1,487、1yで787、1.5yで217 →質問票を発送した月の翌月の月末の段階で未回収のままになっている参加者にショートメールを送信→1ヶ月経っても返送されない場合は、もう一度同じ内容のショートメールを送信→1ヶ月後にまだ返送されない場合はハガキを郵送。 月別質問票回収数(6m, 1y, 1.5y) ●生体資料回収数 →M-T1の採血、採尿で90% 生体試料回収数 ●フォローアップ維持のための工夫 →質問票の送付日ごとに、送付対象者のリストを作成し、質問票の回収の有無や督促の状況などを記録している。 →参加者同士、あるいは参加者とスタッフが直接ふれあい、交流を深める機会として「エコチルママの会」や「エコチルやまなしフォーラム」を定期的に開催している。 フォローアップ維持のための工夫 イベントの案内は全員に発送する。 →自治体主催の子育て支援イベントで、エコチル調査参加者にプレゼント。 →電子マネーの導入…子どもの誕生を機に、転居を検討する家庭が少なくない中、謝礼を電子化することで、利便性・簡便性が向上し、郵送時のトラブル等がなくなった。事務作業は10%に効率化できた。 →電子マネー導入を機に、希望者に対してポイント付与のお知らせメールを送信。今後はイベント情報やエコチル調査で分かったことなどについてもメールで情報発信していく予定。	
5	研修	スタッフ研修状況(頻度、内容) ●研修状況 →月1回、RC情報交換会を開催し、全RCが顔を合わせる機会を設けている。	
6	コミュニケーション	広報活動実績 ●広報活動で工夫している点 →山梨県内最大規模の子育て支援イベントを活用して、エコチル調査の訴求PRに加え、参加者同士が気軽に集まり、子育てに関する情報交換などが図れる場をつくった。(NPOとのタイアップ。) →「エコチルやまなしフォーラム」の開催。 →自治体や子育て支援団体が主催する子育て支援イベントに、「エコチル調査甲信ユニットセンター」のブースを出展。 →毎月1回、A4版の「ユニットセンター通信」を発行し、協力医療機関や対象自治体の関係者に配付。 認知度の効果測定等(実施している場合)	○ フォローアップに向けて、参加者同士、あるいは参加者とスタッフがふれあい、交流を深める機会を定期的に設け、参加者のコミュニティづくりに取り組んでいる点が評価できる。
7	その他	その他 特記事項なし。	
8	個人情報	個人情報管理 特記事項なし。	
9	現場確認	①データシステムの設置場所、PCのセキュリティ対策 ②同意書の保管場所 ③質問票の保管場所 ④入退室管理方法 ⑤その他の情報漏洩対策 特記事項なし。	

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート

対象：甲信サブユニットセンター（信州大学）

		取組状況	所見
ユニットセンター		甲信サブユニットセンター	
大学名（共同機関名）		信州大学	
ユニットセンター長		野見山 哲生	
調査対象予定人数		2,660人 →平成24年度の評価を受けて、2,712人から 2,660人に再設定を行った。	
1	実施体制①	特任教員等の人数	3名
		事務職員等の人数	7名
		リサーチコーディネーター（RC）の人数	18名（信州大学10名＋協力医療機関8名）
		医療機関、行政機関等におけるRC認定の状況	●SUC運営の体制は信州地域で独立しているが、山梨地域と出来る限り一体で甲信UCを進めているという意識を持って行っている。情報共有および懸念事項を議論するため、月1回山梨大学と信州大学で構成している企画・運営会議を行っている。
	実施体制②	ユニットセンターの組織図	
		協力医療機関数とそのリスト	●協力医療機関数は 21。 →H24年11月以降、12医療機関、H25年春に2医療機関追加した。 →拡大理由は、域外や助産院での分娩が予想以上に多かったためである。
		地域運営協議会メンバー	
		地域運営協議会開催状況	●地域運営協議会を山梨部会1回、信州部会1回、甲信UC合計で2回行っている。 →地域の広域連合や、県の医師会・歯科医師会・薬剤師会・小中学校長会も最初の段階から入っていた。様々な団体が入っていることで、広報の役割も果たしてくれている。
2	改善内容	平成24年度評価結果を受けての改善事項や対応状況	①調査地域外での出生数をカバーするため、H24年11月以降、現在まで14医療機関を追加した。拡大後週平均5.9人増により当初の進捗の遅れを吸収しつつある。 ②さらに県内への里帰り出産のカバーを県全域を対象に協力医療機関の拡大を実施中（H25年10月～）。 ③現状で現実的に達成可能な目標を2,660人に再設定し、リクルートを遂行している。
3	リクルート	リクルート者数	2,113人（9月30日時点）
		調査対象予定人数達成が見込まれる年月	平成25年3月
		同意率・カバー率	同意率：78.3%（9月30日時点） カバー率：62%（H24年出生数より算出）
		声掛け数	2,701人
		年間出生数（直近1年）	1,540人（H24年）
		地域・月・医療機関別参加者数	●リクルート方法 協力医療機関の産婦人科外来に、RCを配置し、対象者に声掛け、調査の説明、同意取得を行う。 →RCの担当は決められている。定期的に配置している医療機関においては、決められた曜日・時間帯にRCが常駐。不定期に配置している医療機関においては、病院から連絡があった時にRCが伺う。 →対象者が最初に産科に来院の際に一言声掛けを行い、母子健康手帳発行窓口でも一言声掛けを行う。その後医療機関に来院の際に、RCによるICと同意取得を行う流れとなっている。
		リクルート方法（医療機関、行政窓口等）	
		カバー率、応諾率向上等のための工夫	●カバー率、応諾率向上等のための工夫 →出生率に対する低カバー率地域に隣接する分娩施設を協力医療機関として拡大した。 →助産院を協力医療機関として拡大した。 →協力医療機関を定期的に訪問し、調査の進捗状況をフォードバックするとともに医師からの声掛け強化を促している。 →県内への里帰り出産をカバーするようにした。 →信州独自の紙芝居方式の資料を用いてわかりやすく説明している。 →できるだけ個室に近いスペースを確保し、落ち着いた環境で調査の説明ができるようにしている。 →毎週月曜日に、RC全員に向けて、前週リクルート実績、目標進捗、目標残数カウントダウン、トピックスなどをメールにて発信し、情報共有と意識喚起を行っている。 毎週金曜日に、事務局長が直接、現場にいき、RCに声掛けを行っている。 →隔月で伊那分室にてRC研修会を開催し、全RCが顔を合わせる機会を設けている。

○ 平成24年度の第一次中間評価における指摘事項を受け、調査対象地域外に立地する医療機関の協力を新たに得るなど、対応の努力が行われたと評価できる。

○ 第一次中間評価を受けて、リクルート目標数を現実的に達成可能な数に見直した。現状のまま推移すると、平成 25年度末までのリクルート数は、修正後のリクルート目標数の97%程度となる見込みである。カバー率は54%程度と予想される。

○ 父親のリクルート率は61%であり、他のユニットセンターと比較すると高水準にある。

○ 地域性を考慮し、助産院を協力医療機関として拡大する、県内への里帰り出産をカバーするなど、カバー率拡大の工夫を行っている点が評価できる。

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート

対象：甲信サブユニットセンター（信州大学）

		取組状況	所見
4	フォローアップ	月別質問票回収率(6m, 1y, 1.5y) ●質問票回収率（平成25年6月末までに発送した質問票の発送・回収数） →6mで96%、1yで94%、1.5yで93% ●質問票発送数（平成25年6月末までに発送した質問票の発送・回収数） →6mで987、1yで617、1.5yで288 ●質問票回収数（平成25年6月末までに発送した質問票の発送・回収数） →6mで948、1yで582、1.5yで268 ●生体試料回収数（平成25年9月30日時点） →M-T1：（採血）1,812、（採尿）1,811 →M-T2：（採血）1,814、（採尿）1,812 →M-0m：（臍帯血）1,580、（採血）1,594、（母親毛髪）1,594、（ろ紙血）1,583 →M-1m：（母乳）1,518、（児毛髪）1,611 →F-T1：（採血）1,365 月別質問票発送数(6m, 1y, 1.5y) 月別質問票回収数(6m, 1y, 1.5y) 生体試料回収数 フォローアップ維持のための工夫 ●フォローアップ維持のための工夫 →催促は、発送後6週間経ても連絡し、その後2週間経っても返送されない場合は、更に電話にて2回目の催促を実施している。電話に出てくれない方については、ハガキの催促を実施している。 →リクルート時に丁寧に説明をし、無理に参加を強要せず、意思をもって参加してくれる方のみをリクルートしている。 →親子体操や医療相談会など地域に密着したイベントを開催し、UCスタッフとのコミュニケーション機会を創出することで参加継続意欲を高めている。	○ 生後6か月、1歳および1歳6か月の質問票の回収率がいずれも90%以上であり、回収は順調に進められている。
5	研修	スタッフ研修状況（頻度、内容） ●隔月でRC研修会を伊那分室にて、全RC参加で行っている。	
6	コミュニケーション	広報活動実績 ●調査対象地域におけるイベントにてブース出展。 →H25年9月に行われた信大農学部AFC祭におけるアンケート調査では（回答434人）、既知者53.7%であり、認知度は非常に高い。 ●調査参加者フォローを目的に親子参加型の双方向イベントを実施。 ●「エコびよニュース」（季刊）を発行し、医療機関の待合室、自治体窓口に設置。（H25年3月～） ●甲信ユニットセンターHPのブログで毎週情報発信。 ●ラジオ番組毎週金曜日5分間放送。 ●エコチルフェスティバルをH25年11月に開催。一般の方も含め約180名の参加があった。チラシを2万枚配布した。 認知度の効果測定等（実施している場合）	
7	その他	その他 特記事項なし。	
8	個人情報	個人情報管理 独自の管理システムにより個人情報管理がなされているが、さらに、コアセンターが示す基本ルールに沿うよう調整中。	
9	現場確認	①データシステムの設置場所、PCのセキュリティ対策 ②同意書の保管場所 ③質問票の保管場所 ④入退室管理方法 ⑤その他の情報漏洩対策 特記事項なし。	

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート

対象：富山ユニットセンター

		取組状況	所見
ユニットセンター		富山ユニットセンター	
大学名（共同機関名）		富山大学	
ユニットセンター長		稲寺 秀邦	
調査対象予定人数		5,700人 →平成24年度の評価を受けて、6,900人から 5,700人に再設定を行った。	
1 実施体制	① 特任教員等の人数	2名	
	事務職員等の人数	10名	
	リサーチコーディネーター（RC）の人数	34名 →加えて、県職員（助産師）や医療機関所属スタッフのエコチル調査専任が2名	
	医療機関、行政機関等におけるRC認定の状況	●RC認定状況は累積で106名	
	② ユニットセンターの組織図	●協力医療機関数は11機関 →当初は12機関で、本年5月に1 機関閉院。	
	協力医療機関数とそのリスト	→協力医療機関以外の地域クリニックにはパンフレット配布を依頼している。 →当初の調査対象地域は4市町で、現在は6市町。協力医療機関を増やすことなく地域を拡大している。	
	地域運営協議会メンバー		
	地域運営協議会開催状況	●年2回、地域運営協議会を開催	
2 改善内容	平成24年度評価結果を受けての改善事項や対応状況	①当初6,900人がリクルート目標であったが、平成24年度の評価を受けて、調査対象地域の拡大による達成可能な目標数を設定した（5,700人）。	
3 リクルート	リクルート者数	4,600人（9月30日時点）	○ 平成24年度の第一次中間評価を受けて、調査対象地域を拡大し、リクルート目標数を現実的に達成可能な数に見直した。現状のまま推移すると、平成25年度末までのリクルート数は、修正後のリクルート目標数の96%程度となる見込みである。カバー率は、拡大地域分を除くと、43%程度と予想される。
	調査対象予定人数達成が見込まれる年月	2014年5月 →上記4,600人に今後の見込み数を加えると、2014年5月に5,700人を達成。 （各月の見込み数） 10月は実績＋見込み15人 11月・12月は過去1年間の月間平均値150 1月以降は過去の1～3月の平均値	
	同意率・カバー率	同意率：78%（直近1年） カバー率：43%（直近1年） →富山市がカバー率5割に達していない。出生数の多い2つの医療機関（年間600人出生）から協力が得られていないため。	
	声掛け数	2,274人（直近1年）	
	年間出生数（直近1年）	4,195人	
	地域・月・医療機関別参加者数	●リクルート方法 ・協力医療機関の医師、看護師等から対象者に対し、エコチル調査への参加の声掛けを行ってもらい、RCが説明。 ・行政機関の窓口で母子手帳交付時にリーフレットやエコチル調査の概要を漫画版で解説した冊子を渡してもらっている。	
	リクルート方法（医療機関、行政窓口等）		
	カバー率、応諾率向上等のための工夫	●カバー率、応諾率向上等のための工夫 ・調査の概要をわかりやすく説明した漫画版パンフレットを作成。 ・iPadを活用し、調査の概要説明を効率的に行うことにより時間短縮し、妊婦の負担軽減を図っている。 ・センター長や教員スタッフが、自治体等が主催するイベントに参加し、エコチル調査の説明やPRを行い、調査への参加を呼び掛けている。 ・RC情報交換会において、リクルートの現状について意見交換を行い、リクルート方法の改善に努めている。 ・協力医療機関の受付担当者と連携を取り、診察待ちの妊婦に対し、RCが直接妊婦に参加を呼び掛ける。 ・医師から参加への声掛けがなくRCに妊婦が回ってこない医療機関があったので、そういうところではRCが最初に説明するようにした。	

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート

対象：富山ユニットセンター

		取組状況	所見
4	フォローアップ	月別質問票回収率(6m, 1y, 1.5y) ●質問票回収率(平成25年6月末までに発送した質問票の発送・回収数) →6mで97%、1yで93%、1.5yで90% →発送6週間後に督促ハガキ発送→その2週間後に電話。 ●質問票発送数(平成25年6月末までに発送した質問票の発送・回収数) →6mで2,241、1yで1,381、1.5yで713 ●質問票回収数(平成25年6月末までに発送した質問票の発送・回収数) →6mで2,168、1yで1,287、1.5yで641 ●生体試料回収数 →概ね90% ●フォローアップ維持のための工夫 →ホームページの活用。FaceBookページを新設し、参加者との連携を深める。→調査により得られた情報の公開、イベントの開催等。 →地方新聞やTVCMを活用した広告を掲載し、調査の認知度を高めるとともに関心度を継続させる。新聞に参加者数を月1回掲載。 →路線バス後部へのラッピング広告や市内電車の側面に看板広告を出し、調査への参加及び関心度の継続を図っている。 →エコチル富山新聞を年2回発行し、情報の提供に努める。 フォローアップ維持のための工夫 →子供の成長に合わせ、参加者が興味を持つようなイベントを開催し調査への継続を促す。 →グッズを作り参加者謝礼(金券)送付時に頒布し、調査の継続を促す。	○ 生後 6か月、1 歳および 1 歳6か月の質問票の回収率がいずれも90%以上であり、回収は順調に進められている。
5	研修	スタッフ研修状況(頻度、内容) ●研修状況 →2か月に1回、RCと富山UCスタッフが集まり、情報交換会を開催。テーマを決めて、意見を出し合うワークショップを実施している。 ●今後の改善 →(コアセンターへの要望)他UCにおけるデータ入力の方法について聞きたい。 →実務担当者が他のUCと情報交換できる機会がほしい。	
6	コミュニケーション	広報活動実績 ●広報活動で工夫している点 →本年4月、イベント企画部を発足させた。 →イベントでは参加者アンケートを実施し、結果を次回にフィードバックしている。 認知度の効果測定等(実施している場合)	
7	その他	特記事項なし。	
8	個人情報	特記事項なし。	
9	現場確認	①データシステムの設置場所、PCのセキュリティ対策 ②同意書の保管場所 ③質問票の保管場所 ④入退室管理方法 ⑤その他の情報漏洩対策	

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート

対象：愛知ユニットセンター

		取組状況	所見
	ユニットセンター	愛知ユニットセンター	
	大学名（共同機関名）	名古屋市立大学	
	ユニットセンター長	上島 通浩	
	調査対象予定人数	5,850人 →平成24年度の評価を受けて、6,000人から 5,850人に再設定を行った。	
1	実施体制①	特任教員等の人数	1名
		事務職員等の人数	15名
		リサーチコーディネーター（RC）の人数	16名 →本年度新規に5名を認定
		医療機関、行政機関等におけるRC認定の状況	●協力医療機関数は35機関。 →本年度に1機関を加えて、調査地域内の分娩施設はすべて網羅している。 →隣接地域にある医療機関も9機関を加えた。 →小児科の協力機関があるのは、助産院が小児科と連携しているため。
	実施体制②	ユニットセンターの組織図	
		協力医療機関数とそのリスト	●年3回、地域運営協議会を開催。 →調査の効果的な運営や同意者数の向上の為の方策が話し合われた。
		地域運営協議会メンバー	
		地域運営協議会開催状況	
2	改善内容	平成24年度評価結果を受けての改善事項や対応状況 ①スタート当初同意6,000人が目標であったが、平成24年度の間評価を受けて、5,850人を目標とした。 ②母子手帳発行数をモニタリングすることで、受診動態の変化に早期に対応した。 ③受診動態の変化を受け、新規協力医療機関を追加。調査対象地域内全ての産科医療機関の協力を得られる体制を構築した。 ④必要に応じ、クリニックに合わせてリクルート方法を変更した。（例：夕診時間帯受診者のリクルートの強化、常駐RCの配置、差印刷前リクルートの開始）	
3	リクルート	リクルート者数	4,727人（9月30日時点）
		調査対象予定人数達成が見込まれる年月	2014年3月 →9月末で約4,730人をリクルート、昨年の10月～3月の実績が1,120人であるので、2014年3月で5,850人となる。
		同意率・カバー率	同意率：72%（9月30日時点） カバー率：39%→43%（直近1年）に向上
		声掛け数	6,608人（9月30日時点）
		年間出生数（直近1年）	4,652人 →直近1年の出生数は、その1年前の同じ期間より9%減少している。
		地域・月・医療機関別参加者数	●リクルート方法 ・対象者数の多い医療機関（基幹医療機関）・・・RCが常駐 ・北区の対象者が少ない医療機関・・・母子手帳発行窓口でRCが簡単に説明後、健診日に合わせてRCが出動 ・一宮市等の対象者が少ない医療機関・・・RC 認定を受けた医療機関スタッフがリクルートを実施し、ユニットセンターのRCが巡回
		リクルート方法（医療機関、行政窓口等）	
		カバー率、応諾率向上等のための工夫	●カバー率、応諾率向上等のための工夫 ・新規協力医療機関の追加 ・同意率の低い協力医療機関への個別コンサルティングを実施（実務担当者とのミーティング、オリジナル広報資料の作成） ・プロジェクトマネージャーが定期的（1週間から2週間に1度）に全医療機関を巡回 ・協力医療機関スタッフを招集し研修会やミーティングを開催し、良好実践事例を共有 ・わかりやすい説明資料（絵本、マンガ、動画）の作成、使用 ・エコチル調査へのポジティブな印象づけのための、魅力的なリクルート資料の作成 ・病院待合におけるDVD 放映 ・iPadを活用したリクルート（待ち時間の有効活用や、子ども対応ツールとしての活用）
			○ 平成24年度の第一次中間評価における指摘事項を受け、母子健康手帳発行数をモニタリングしたり、妊婦の受診動向の変化を踏まえ新規協力医療機関を追加するなど、対応の努力が行われたと評価できる。 ○ 第一次中間評価を受けて、リクルート目標数を現実的に達成可能な数に見直した。現状のまま推移すると、平成25年度末時点で、修正後のリクルート目標数をほぼ達成できる見込みである。カバー率は43%程度と予想される。

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート

対象:愛知ユニットセンター

		取組状況	所見
4	フォローアップ	月別質問票回収率(6m, 1y, 1.5y) ●質問票回収率(平成25年6月末までに発送した質問票の発送・回収数) →6mで96%、1yで90%、1.5yで87% ●質問票発送数(平成25年6月末までに発送した質問票の発送・回収数) →6mで2,142、1yで1,329、1.5yで561 ●質問票回収数(平成25年6月末までに発送した質問票の発送・回収数) →6mで2,065、1yで1,190、1.5yで485 ●生体試料回収数 →90%以上 月別質問票回収数(6m, 1y, 1.5y) ●フォローアップ維持のための工夫 →出産後の参加者に対するヒアリングの実施 (UC発行雑誌の編集員に参加者を起用) 生体試料回収数 →1歳半健診会場にブースを出し、参加者との対面機会を確保 フォローアップ維持のための工夫 →生後6か月対象者に、6か月以降の調査スケジュールやQ&Aを示したフォローアップガイドを郵送(UC独自に作成)	
5	研修	スタッフ研修状況(頻度、内容) ●研修状況 →毎月、事務局会議(兼RC研修)を開催。 →定期的に協力医療機関のスタッフを招いて、研修と状況報告も行う。 ●今後の改善 →問い合わせ研修の力を入れたい。問い合わせへの対応次第で、脱落を少しでも防げると考えられる。	
6	コミュニケーション	広報活動実績 ●広報活動で工夫している点 →「アテンション戦略」(認知度向上)と「リテンション戦略」(参加維持)を実施。 →重視しているのは、ローコストであること、ブランディング戦略。また、エコチル調査に参加すると、イベントがあるという印象付け。 →運営協議会のメンバーから情報を得て、地域のイベントに参加。 →エコチルクッキングは、ただイベントとして楽しいだけでなく、クッキングを通じたコミュニティづくりをねらいとしている。 →イベント実施にあたっては、参加者を平等に扱うことと、ホスピタリティをしっかりとすることに配慮。写真は必ず同意を得るなど個人情報管理を意識。 →広報活動の際店舗とお付き合いすることもあるが、その店舗を紹介するようなものにならないように配慮している。 ●今後の改善策 →調査参加者の企画・主導による活動をUCがサポートするような広報活動としていきたい。 認知度の効果測定等(実施している場合)	○ フォローアップに向けて、独自にフォローアップに関する説明書を作成したり、積極的に調査参加者向けイベントを行って母親のコミュニティづくりを進めるなどの取り組みを進めている点が評価できる。
7	その他	特記事項なし。	
8	個人情報	特記事項なし。	
9	現場確認	①データシステムの設置場所、PCのセキュリティ対策 ②同意書の保管場所 ③質問票の保管場所 ④入退室管理方法 ⑤その他の情報漏洩対策	特記事項なし。

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート

対象：京都ユニットセンター

			取組状況	所見
ユニットセンター			京都ユニットセンター	
大学名（共同機関名）			京都大学、同志社大学	
ユニットセンター長			小西 郁生	
調査対象予定人数			3,850人 →平成24年度の評価を受けて、5,000人から 3,850人に再設定を行った。	
1	実施体制①	特任教員等の人数	3名	
		事務職員等の人数	7名	
		リサーチコーディネーター（RC）の人数	20名（京都8名、木津川7名、長浜5名） →パートタイム勤務の方含む。 →多少の増減はあるが、全体数はほぼ変わっていない。	
		医療機関、行政機関等におけるRC認定の状況	●京都大学内に京都オフィス、同志社大学内に木津川オフィス、長浜オフィスは民間施設の1室を事務所としている。長浜には事務担当の職員はおいておらず、最低限の作業のみ行っている。	
	実施体制②	ユニットセンターの組織図		
		協力医療機関数とそのリスト	●協力医療機関数は 19（京都10、木津川5、長浜4） →平成23年度に1施設、24年度に3施設を追加。	
		地域運営協議会メンバー	●年1回、10月頃に地域運営協議会を開催。 →毎回出席者数は50名程度。	
		地域運営協議会開催状況		
2	改善内容	平成24年度評価結果を受けての改善事項や対応状況	①すべての対象者への声掛けもれがないように、窓口での方法に工夫が図られている。 ②リクルート目標数は、5,000人→3,850人と変更し、修正目標数の達成は確実であり、目標数を上回るよう努力している（3,900人程度となる見込み）。	
3	リクルート	リクルート者数	3,173人（9月30日時点）	○ 平成24年度の第一次中間評価における指摘事項を受け、対象者への声かけもれがないように母子健康手帳発行窓口でのリクルート方法を工夫するなど、対応の努力が行われたと評価できる。
		調査対象予定人数達成が見込まれる年月	平成26年3月	
		同意率・カバー率	同意率：53.6 % カバー率：39%	○ 第一次中間評価を受けて、リクルート目標数を現実的に達成可能な数に見直した。現状のまま推移すると、平成 25年度末時点で、修正後のリクルート目標数を達成できる見込みである。カバー率は40 %程度と予想される。 ○ 他のユニットセンターとは異なり、父親のリクルートは対面ではなく手紙を渡して行っている。父親のリクルート率は77%であり、他のユニットセンターと比較して高い水準にある。
		声掛け数	4559人（9月26日時点）	
		年間出生数（直近1年）	3,838人	
		地域・月・医療機関別参加者数	●リクルート方法 母子手帳発行窓口 →京都は個人病院が多数あり、対象者が分散して多数の病院を受診している状況を考慮し、また、一度持ち帰り、父親からの同意をもらうことを方針としたため、母子手帳発行窓口でのリクルートを行っている。	
		リクルート方法（医療機関、行政窓口等）	●カバー率、応諾率向上等のための工夫 →保健センターでは、同意書を母子手帳に挟み、次回母子手帳ごと医療機関に提出するように伝えることとした。不同意でも提出してもらうよう依頼している。 →保健センターで声かけをした妊婦さんのリストを医療機関に伝えて、次回受診した際に、声掛けしてもらうようにした。	
		カバー率、応諾率向上等のための工夫		

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート

対象：京都ユニットセンター

		取組状況	所見
4	フォローアップ	月別質問票回収率(6m, 1y, 1.5y) ●質問票回収率(平成25年6月までに発送した質問票の発送・回収数) →6mで94%、1yで92%、1.5yで91% ●質問票発送数(平成25年6月までに発送した質問票の発送・回収数) →6mで1,303、1yで661、1.5yで166 ●質問票回収数(平成25年6月までに発送した質問票の発送・回収数) →6mで1,222、1yで605、1.5yで151 月別質問票回収数(6m, 1y, 1.5y) ●生体試料回収数(10月25日時点) →M-T1:(採血) 2,778人, (採尿) 2,781人 →M-T2:(採血) 2,626人, (採尿) 2,618人 →M-0m:(臍帯血) 2,011人, (母体血) 2,236人, (ろ紙血) 2,213人, (母毛髪) 2,323人 →M-1m:(母乳) 2,089人, (児毛髪) 2,211人 →F-T1:(採血) 1,929人 生体試料回収数 ●フォローアップ維持のための工夫 →小児科医による個別のエコチル育児健康相談を月2回(京都地区)、月1回(木津川・長浜地区)で実施している。リクルートの際、M-1m質問票の発送のご案内している。 →(木津川地区)エコチルカフェを定期的に開催し、参加者同士の交流の機会を設けている。 (長浜地区)子育て座談会の開催。(京都地区)ワクチン接種についてのシンポジウムを、京都小児科医会、京都産婦人科医会、製薬会社と共催で開催。 →お誕生カード、エコチルノートの送付、出産入院中の訪問などを行っている。 →「ファミリー」を築くつもりで、なるだけ参加者との交流機会を設けている。 →質問票回収にあたっては、1か月を経っても未着の場合、目安としての締切(週末が3回含まれる程度の期間)を記載した催促の手紙を送る。 フォローアップ維持のための工夫	○ 生後 6か月、1 歳および 1 歳6か月の質問票の回収率がいずれも90%以上であり、回収は順調に進められている。
5	研修	スタッフ研修状況(頻度、内容) ・RCのミーティングは毎週行い、情報交換を行っている。 ・病院業務の効率化や保健センターでのリクルート業務のスキルアップを目的に、1～2か月に1回、RC研修会を開催し、意見交換等を実施している。 →京都ユニットセンターが独自に開催した研修会において、受講者には課題を課し、基準以上の成績が得られた者について修了証を発行した。	
6	コミュニケーション	広報活動実績 ●市民対象の催し物への出典 ●ニューズレターの刊行 →3地区共通のニューズレター及び木津川限定のニューズレターを年に1回程度刊行。 ●懸垂幕の設置 →2年前より、木津川市役所、長浜市役所に、エコチル調査への参加を呼び掛ける垂幕を設置。長浜の方は、傷みが激しく現在は終了。 ●プレママパパ講座の開催 →木津川市、長浜市と共催で月1回開催 認知度の効果測定等(実施している場合)	
7	その他	特記事項なし。	
8	個人情報	特記事項なし。	
9	現場確認	特記事項なし。	

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート

対象：大阪ユニットセンター

		取組状況	所見	
ユニットセンター		大阪ユニットセンター		
大学名（共同機関名）		大阪大学（共同機関：大阪府立母子医療センター、以下、母子C）		
ユニットセンター長		磯 博康		
調査対象予定人数		8,000人 →平成24年度の評価を受けて、7,500人から8,000人に目標を引き上げた。		
1	実施体制①	特任教員等の人数	4名	
		事務職員等の人数	10名（阪大）＋6名（母子C） →母子Cでは、チャイルドライフスペシャリスト1名、臨床心理士1名を雇用。	
		リサーチコーディネーター（RC）の人数	24名 →認定は55名 →すべての協力医療機関（13機関）にRCを配置 →行政窓口にはRCの配置なし（母子手帳交付時に、保健師からパンフレット配布と案内）	
		医療機関、行政機関等におけるRC認定の状況	●協力医療機関数は13機関 →医療機関は増やしていない。	
	実施体制②	ユニットセンターの組織図	●地域運営協議会とともに、産科専門委員会、小児科専門委員会を設置 →平成25年1月に小児科専門委員会を立ち上げ。 →小児科専門委員会では、疾患情報登録などについて話し合った。	
協力医療機関数とそのリスト				
地域運営協議会メンバー				
地域運営協議会開催状況				
2	改善内容	平成24年度評価結果を受けての改善事項や対応状況	①平成24年度の間接評価を受けて、リクルート目標数の増加を検討した。 →年間250件程度出生数が減少していることから、現行の協力医療機関のまま、調査対象地域に和泉市を加え、8,000人を目標とした。 ②RCを5名追加採用し、配置人数や配置時間の全面見直しを行った。 →一時リクルート活動を見合わせていた医療機関にも改めてRCを配置した。 ③広報活動を活発化させた。 →自治体や企業に対し、再度ポスター掲示の協力依頼。 →保健センターに対し、母子手帳発行時のパンフレット配布と言葉かけの依頼。 →ノベルティグッズの効果的な配布。	
3	リクルート	リクルート者数	6,521人（9月30日時点）	○ 昨年度に引き続き、リクルートは順調に行われている。 ○ 平成24年度の第一次中間評価を受けて、全国10万人の目標に向けて寄与するため、リクルート目標数を引き上げた。現状のまま推移すると、平成25年度末時点で、引き上げ後のリクルート目標数をほぼ達成できる見込みである。カバー率は、拡大地域分を除くと、49%程度と予想される。
		調査対象予定人数達成が見込まれる年月	2014年3月末 →3月内に7,900人台に達すると予想。	
		同意率・カバー率	同意率：76% カバー率：49%（2012年出生数より算出） →リクルートを本年度開始した和泉市はのぞく。	
		声掛け数	8,559人（9月30日時点）	
		年間出生数（直近1年）	6,277人（2012年次）	
		地域・月・医療機関別参加者数	●リクルート方法 ・協力医療機関にRCを配置し、調査の説明と同意取得を行う。 ・自治体窓口では、パンフレットを母子手帳に挟み込み。	
		リクルート方法（医療機関、行政窓口等）	●カバー率、応諾率向上等のための工夫 ・各医療機関における産科診察時間帯には、必ずRCが勤務できるように勤務計画を工夫して、夜診・土曜診にも対応する。 ・隔月に開催するRC意見交換会で、各RCがリクルート時の対応の方法について、成功例失敗例を話し合い、互いに学び合う。 ・リクルートマニュアル（セリフ台本）を作成し、採用直後で慣れないRCでも、ある程度の話術や対応が可能になるように教育的配慮をする。 ・新規採用RCは、臨地研修として配属以外の医療機関でも学ばせる。 ・医療機関から妊婦予定日リストなどの提供をいただき、受診した妊婦さんのうち適格者全員を対象として、調査説明を聞いて頂く機会を作る。 ・セミオープンシステムにより妊娠中後期から協力医療機関に受診される妊婦を掘り起こし、対象者として加える。 ・ノベルティグッズの効果的な配布。	
		カバー率、応諾率向上等のための工夫		

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート

対象：大阪ユニットセンター

		取組状況	所見
4	フォローアップ	月別質問票回収率(6m, 1y, 1.5y) ●質問票回収率(平成25年6月末までに発送した質問票の発送・回収数) →6mで94%、1yで92%、1.5yで90%。 ●質問票発送数(平成25年6月末までに発送した質問票の発送・回収数) →6mで3,332、1yで2,182、1.5yで1,060。 ●質問票回収数(平成25年6月末までに発送した質問票の発送・回収数) →6mで3,127、1yで2,004、1.5yで951。 ●生体資料回収数 →M-T1の生体試料で93%。 →C-0m、C-1mの生体試料に比べて臍帯血が少ないのは、臍帯血バンクに提供しているため。	○ 生後6か月、1歳および1歳6か月の質問票の回収率がいずれも90%以上であり、回収は順調に進められている。
	月別質問票発送数(6m, 1y, 1.5y)	●フォローアップ維持のための工夫 →あらかじめ各医療機関における出産状況(出産日)を把握してリストを作成し、質問票送付対象児抽出日にそのリストと照合している。 →督促は、質問票発送1か月後にハガキを郵送、その2週間後に電話をしている。ハガキは、参加者が受領する時の気持ちに配慮して、ユニットキャラクターをあしらったものとした。 →協力取りやめ意向の参加者には、コールセンターに電話を頂く事をルールとしている。返答用の台本を用意し、調査の今後の見通しや、「質問票に回答しながら我が子の成長発達を実感できる楽しみもある」ことを説明して、協力取りやめに至らないように工夫している。 →大阪ユニットセンターのHPの中に育児に役立つコラムを掲載。 →電話による督促は双方にとって負担となることから、今後はショートメールの活用を考えている。 →来年度より、参加者向けにメールマガジンを配信するために準備を進めている。	
	月別質問票回収数(6m, 1y, 1.5y)		
	生体試料回収数		
	フォローアップ維持のための工夫		
5	研修	スタッフ研修状況(頻度、内容) ●研修状況 →2か月に1回、土曜日の午後にRC意見交換会を開催している。 →意見交換会の議事録をすぐに作成し、当日参加していない人にもすぐに送るようにしている。 →コアセンターから来た情報は、内容をかみ砕いたうえで、すべてRCに伝えるようにしている。	
6	広報活動実績	●広報活動で工夫している点 →地域イベントに参加して、パネル掲示や啓発グッズの配布などの広報活動を行っている。 →リクルート最終年度にあたり、調査ポスターの掲示協力を自治体・企業を中心に呼びかけた。 →エコチル調査の啓発や参加者の調査継続を維持するため、オリジナルグッズを製作した。 →今年度より小児科医、臨床心理士、管理栄養士による子育て応援リレーコラムの掲載を始め、調査参加者の身近な関心事の情報提供に努めている。今後とも、参加者が一層利用しやすいHPづくりを検討していく。 →来年度より、参加者向けにメールマガジンを配信するために準備を進めている。(前出)	
	認知度の効果測定等(実施している場合)		
7	その他	特記事項なし。	
8	個人情報	特記事項なし。	
9	現場確認	①データシステムの設置場所、PCのセキュリティ対策 ②同意書の保管場所 ③質問票の保管場所 ④入退室管理方法 ⑤その他の情報漏洩対策 特記事項なし。	

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート

対象：兵庫ユニットセンター

		取組状況	所見
ユニットセンター		兵庫ユニットセンター	
大学名（共同機関名）		兵庫医科大学	
ユニットセンター長		島 正之	
調査対象予定人数		5,600人 →平成24年度の評価を受けて、6,600 から 5,600 に再設定を行った。	
1 実施体制①	特任教員等の人数	2名	○ 平成24年度の第一次中間評価における指摘事項を受け、リサーチコーディネーターや事務職員、専任教員を増員し、ユニットセンターの体制を強化するなど、対応の努力が行われたと評価できる。
	事務職員等の人数	13人（内アルバイト10人）	
	リサーチコーディネーター（RC）の人数	17人（内アルバイト8人）	
	医療機関、行政機関等におけるRC認定の状況	●協力医療機関スタッフのRCは、3医療機関で 18名（累積）	
	ユニットセンターの組織図	●協力医療機関数は 30。	
2 実施体制②	協力医療機関数とそのリスト	●運営協議会と拡大運営協議会があるが、年に2～3回程度開催したい。 →運営協議会委員は、28名 →拡大運営協議会は、運営協議会委員 28名に加えて、すべての協力医療機関から参加していただく。 →今年度は、7月18日に運営協議会を開催、12月19日に拡大運営協議会を開催予定、リクルート終了前後（3月下旬）にも開催を予定している。	
	地域運営協議会メンバー		
	地域運営協議会開催状況		
2 改善内容	平成24年度評価結果を受けての改善事項や対応状況	●ユニットセンターの定例会議を月2回開催してスタッフ間のコミュニケーションを図っている。また、RCを増員して、土曜日に限らず、協力医療機関の診療時間帯をできるだけカバーできるように努めている。 ●専任教員、事務職員を増員し、ユニットセンターの体制を強化した。特に、本年4月には新たに小児科医を専任教員として迎えることにより、協力医療機関における様々な問題にも迅速に対応できるようにしている。 ●事務担当者による週1回の協力医療機関への資材等の集配も継続し、RCの負担を軽減し、リクルート業務に専念できるように努めている。	
3 リクルート	リクルート者数	4,461人（9月30日時点）	○ 第一次中間評価を受けて、リクルート目標数を現実的に達成可能な数に見直した。現状のまま推移すると、平成25年度末までのリクルート目標数の95%程度となる見込みである。カバー率は40%程度と予想される。
	調査対象予定人数達成が見込まれる年月	平成26年3月	
	同意率・カバー率	②同意率：73.6%（9月30日時点） カバー率：40%	
	声掛け数	6,063人（9月30日時点）	
	年間出生数（直近1年）	4,363人	
	地域・月・医療機関別参加者数	●リクルート方法 原則として協力医療機関において行っている。 （行政窓口ではパンフレットを配布し、市の保健師より簡単な説明を行っている。） ●カバー率、応諾率向上等のための工夫 現在、尼崎市内で分娩を取り扱っている全医療機関が協力医療機関となっている。また、近隣の医療機関や分娩を取り扱っていない産婦人科医療機関にも協力いただいている。そのため、これ以上に多くの協力医療機関に協力いただくよりも、①現在の協力医療機関においてできるだけ多くの対象妊婦に対して声を掛けるように努めること、②応諾率を高めることが必要であると考えている。	
	リクルート方法（医療機関、行政窓口等）	①多くの妊婦に声を掛けるための工夫 できるだけ多くの診療時間をカバーできるように努めている。 診療後にリクルートを行っているため、待ち時間が非常に長い場合など、早く帰宅したいという理由でエコチル調査の説明を聞いてもらえないことが多い。可能な場合は、診療前の待ち時間にリクルートを行う工夫を行っている。	
	カバー率、応諾率向上等のための工夫	②応諾率を高める工夫 保留者が相当数いる。保留の理由について結果を分析して、説明方法の改善を図っている。 協力医療機関の医師等の職員から、エコチルについて一言、話してもらうよう努めている。 しかしながら、大きい病院ほど、スタッフの出入りが激しいため、難しい点がある。	

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート

対象：兵庫ユニットセンター

		取組状況	所見
4	フォローアップ	月別質問票回収率(6m, 1y, 1.5y) ●質問票回収率(平成25年6月末までに発送した質問票の発送・回収数) →6mで95%、1yで91%、1.5yで90% ●質問票発送数(平成25年6月末までに発送した質問票の発送・回収数) →6mで2,158、1yで1,269、1.5yで496 ●質問票回収数(平成25年6月末までに発送した質問票の発送・回収数) →6mで2,055、1yで1,155、1.5yで444	○ 生後6か月、1歳および1歳6か月の質問票の回収率がいずれも90%以上であり、回収は順調に進められている。
		月別質問票発送数(6m, 1y, 1.5y) ●生体試料回収数 →M-T1:3,994人、M-T2:4,109人、M-0m:3,685人、M-1m:3,302人、F-T1:1,559人、C-0m:3,608人、C-1m:3,472人 ●フォローアップ維持のための工夫 →質問票の提出率アップに向けて、督促業務の見直しを行った。 →これまでは、未提出者に電話対応を行っていたが、返送率は低かった。	
		月別質問票回収数(6m, 1y, 1.5y) →督促業務を見直して、以下の手順を確立した。 ①まず質問票未提出者をピックアップし、ハガキで連絡 ②その上で、質問票の提出がない場合に、電話連絡を行う。 →その結果、350名にハガキを送付したところ、4週以内に53名から質問票の提出があった。	
		生体試料回収数 →参加者向け通信紙『エコチル ひょうご』を発行 2013年5月に第1回、今秋に第2回を発行予定。	
		フォローアップ維持のための工夫 →イベントの開催 目的：①参加者の調査への関心を高め、生の声を聞く ②イベント参加を契機に未提出の質問票を回収 ③参加者(母)に出産後のコミュニティ形成の場を提供 ・ ヨガ教室 1か月に1回のペースで計11回開催 ・ 太極拳入門講座 2013年11月から開催予定	
5	研修	スタッフ研修状況(頻度、内容) ・常勤スタッフは、何らかの形で、コアセンター主催の研修に参加。 ・ アルバイトスタッフも、大阪、名古屋の研修に参加。	
6	コミュニケーション	広報活動実績 ●尼崎市ホームページにバナー広告掲載 ●ケーブルテレビ →5分インフォマーシャル、60秒CM ●FMラジオ →60秒CM ●エコチルひょうご通信(協力医療機関および関係者向けに発行) ●エコチルひょうご(参加者向けに発行) →年2回では限界があるため、今後検討	
		認知度の効果測定等(実施している場合)	
7	その他	その他 特記事項なし。	
8	個人情報	個人情報管理 独自の管理システムにより個人情報管理がなされているが、さらに、コアセンターが示す基本ルールに沿うよう調整中。	
9	現場確認	①データシステムの設置場所、PCのセキュリティ対策 ②同意書の保管場所 ③質問票の保管場所 ④入退室管理方法 ⑤その他の情報漏洩対策 特記事項なし。	

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート
対象：鳥取ユニットセンター

			取組状況	所見
ユニットセンター			鳥取ユニットセンター	
大学名（共同機関名）			鳥取大学	
ユニットセンター長			福本 宗嗣	
調査対象予定人数			3,000人	
1	実施体制①	特任教員等の人数	0名	
		事務職員等の人数	8名	
		リサーチコーディネーター（RC）の人数	9名 →うち5名は助産師・看護師の資格あり。 →RCの定着率は、非常に高いが、H25年8月に3名RCが変更になった。	
		医療機関、行政機関等におけるRC認定の状況	●協力医療機関数は 7。 →出産を扱っているところとしてはすべて網羅している。 →2市6町1村が対象範囲である。	
	実施体制②	ユニットセンターの組織図	●年1回、地域運営協議会を開催。 フォローアップ強化のため、小児看護専門の先生を委員に追加。	
		協力医療機関数とそのリスト		
		地域運営協議会メンバー		
	地域運営協議会開催状況			
2	改善内容	平成24年度評価結果を受けての改善事項や対応状況	①平成24年度評価：指摘事項なし。目標通り順調に進行。	
3	リクルート	リクルート者数	2,502人（9月30日時点）	○ 昨年度に引き続き、リクルートは順調に行われている。 ○ 現状のまま推移すると、平成25年度末時点で、リクルート目標数を達成できる見込みである。カバー率は48%程度と予想される。
		調査対象予定人数達成が見込まれる年月	平成26年3月	
		同意率・カバー率	②同意率：84.7% カバー率：48%（9月30日時点）	
		声掛け数	1,625人（直近1年）	
		年間出生数（直近1年）	2,096人	
		地域・月・医療機関別参加者数	●リクルート方法 行政機関窓口および協力医療機関 →母子健康手帳交付時に保健師による概要説明及びパンフレット配布 →各医療機関に1～2名のRCを配置。人により違いはあるが、医師による声掛けは必ず行ってもらっている。常駐のRCは、カルテにエコチル調査の進行管理のシールを貼る等、医療機関の負担軽減を図っている。	
		リクルート方法（医療機関、行政窓口等）	●カバー率、応諾率向上等のための工夫 →なるべく即同意をもらうようにしている。 →医師の説明があるかどうか大きな要因となるため、医療機関に少しでも声掛けをいただけるよう依頼している。	

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート
対象：鳥取ユニットセンター

		取組状況	所見
4	フォローアップ	月別質問票回収率(6m, 1y, 1.5y) ●質問票回収率 →6mで90%、1yで89%、1.5yで79% ●質問票発送数 →6mで1,303、1yで792、1.5yで323 月別質問票回収数(6m, 1y, 1.5y) ●質問票回収数 →6mで1,178、1yで704、1.5yで256 ●生体試料回収数 →M-T1:2,187、M-T2:2,182、M-0m:1,938、M-1m:1,916、F-T1:901 月別質問票回収数(6m, 1y, 1.5y) ●フォローアップ維持のための工夫 →三段階での催促を行っている。催促ハガキ→電話→生体試料採取分の謝金送付時の文書での依頼。 →前期・中期質問票未提出者には、担当RCより声掛けを実施。 →参加者からの問合せ用にフリーダイヤルを設置している。2日に1回程度相談がある。 生体試料回収数 →ニュースレターの刊行（2013年12月中までに第1刊を予定）。 →参加者向けイベントの実施（2014年2月15日に初めての親子イベントを実施予定。200名対象） フォローアップ維持のための工夫 →電話でのフォローアップに限界を感じており、相談窓口という形式の方が良いかどうか検討中である。	
5	研修	スタッフ研修状況 (頻度、内容) ・RCミーティングを月1回実施し、現状の報告と意見交換を行っている。 ・RC全員集会を週1回実施し、情報交換等を行っている。	
6	コミュニケーション	広報活動実績 ●ケーブルテレビで、コンスタントに（週1回程度）、CMを流している。 →ケーブルテレビを見ている人はそれほど多くなく、認知度調査では、1/4程度の方がケーブルテレビで、エコチル調査を見たことがあると回答している。 認知度の効果測定等 (実施している場合) ●病院内のモニター・TV等でも流してもらっている。 ●リクルートにおいて、あらかじめ、「エコチル調査」という言葉を聞いたことがあるのとならないのでは、その後の話の進み方が違うため、地域に対する広報は大事だと考えて、広報活動を行っている。	
7	その他	特記事項なし。	
8	個人情報	独自の管理システムにより個人情報管理がなされているが、さらに、コアセンターが示す基本ルールに沿うよう調整中。	
9	現場確認	①データシステムの設置場所、PCのセキュリティ対策 ②同意書の保管場所 ③質問票の保管場所 ④入退室管理方法 ⑤その他の情報漏洩対策	特記事項なし。

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート

対象：高知ユニットセンター

		取組状況	所見	
ユニットセンター		高知ユニットセンター		
大学名（共同機関名）		高知大学		
ユニットセンター長		菅沼 成文		
調査対象予定人数		7,000人 →平成24年度の評価を受けて、6,000から7,000と目標を引き上げた。		
1	実施体制①	特任教員等の人数	5名	
		事務職員等の人数	15名（派遣職員6人含）	
		リサーチコーディネーター（RC）の人数	16名 →定着率が高い。	
		医療機関、行政機関等におけるRC認定の状況	●協力医療機関数は 21。 →地域拡大に応じて 1 医療機関を追加し、また2013年夏にもう 1 医療機関を追加した。 →愛媛県の協力医療機関が5つ含まれている。	
	実施体制②	ユニットセンターの組織図	●地域運営協議会を年2回開催。	
		協力医療機関数とそのリスト		
		地域運営協議会メンバー		
		地域運営協議会開催状況		
2	改善内容	平成24年度評価結果を受けての改善事項や対応状況	①調査地区の現状を詳細に調査し、リクルート目標数を6,000人から7,000人へ上方修正を行った。調査地区拡大は不要と判断した。 ②USBメモリの紛失事案については、原因究明、影響、影響軽減策を分析し、環境省に報告をした。 →UC全職員に、個人情報管理についての研修を行い、現在、協力医療機関での所持している個人情報の整理、不必要な個人情報の所持禁止の取組みを進めている。 →UC事務室に、より安全性の高い24時間のセキュリティシステムを導入予定。	
3	リクルート	リクルート者数	5,668人（9月30日時点）	○ 昨年度に引き続き、リクルートは順調に行われている。 ○ 平成24年度の第一次中間評価を受けて、全国10万人の目標に向けて寄与するため、リクルート目標数を引き上げた。現状のまま推移すると、平成25年度末時点で、引き上げ後のリクルート目標数をほぼ達成できる見込みである。カバー率は60%程度という高い水準になるものと予想される。 ○ 父親のリクルート率は31%であり、他のユニットセンターと比較すると低水準となっている。父親が母親と一緒に産婦人科に来ない土地柄の影響も考えられるが、父親への声かけの強化が望まれる。
		調査対象予定人数達成が見込まれる年月	平成26年3月	
		同意率・カバー率	同意率：73.1%（9月30日時点） カバー率：60%	
		声掛け数	7,750人	
		年間出生数（直近1年）	4,137人	
		地域・月・医療機関別参加者数	●リクルート方法 協力医療機関にRCが常駐しリクルートを行っている。梶原町対象者で愛媛県内医療機関受診者のみ、保健福祉支援センターにてリクルートを行っている。 →協力医療機関の方でRC常駐日に対象者の方が受診するよう調整してくれる所もある。 →医師の声掛け後、RCがリクルートする流れで行っている。 ●カバー率、応諾率向上等のための工夫 →自治体窓口にてリーフレットの配布および保健師から参加依頼の一言をかけていただけよう依頼している。 →医療機関の医師へ声掛けをいただけるよう再度依頼している。 →広報ワーキンググループを立ち上げ、エコチル調査の更なる浸透を目指して、広報活動を行っている。 →協力医療機関に対し、現状を報告し、意思の疎通を図っている。 →医療機関スタッフとRCの役割を明確にし、医療機関スタッフの理解を得るようにしている。 →調査内容、調査の重要性を、丁寧に説明し、即同意を取得するようにしている。 →リクルート強化月間を設定し、同意率向上を目指す。 →新たに協力医療機関の追加を行った。（H25年夏に 1 医療機関追加）	
		リクルート方法（医療機関、行政窓口等）		
		カバー率、応諾率向上等のための工夫		

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート

対象：高知ユニットセンター

		取組状況	所見
4	フォローアップ	月別質問票回収率(6m, 1y, 1.5y) ●質問票回収率 →6mで92%、1yで89%、1.5yで83% ●質問票発送数 →6mで2,614、1yで1,638、1.5yで789 ●質問票回収数 →6mで2,408、1yで1,460、1.5yで654 月別質問票発送数(6m, 1y, 1.5y) ●生体試料回収数（平成25年9月30日現在、1カ月検診終了者：N=4,011） →M-T1：（採血）3,469, 86.5%,（採尿）3,419, 85.2% →M-T2：（採血）3,875, 96.6%,（採尿）3,849, 96.0% →M-0m：（臍帯血）3,853, 96.1%,（採血）3,916, 97.6%,（母親毛髪）3,825, 95.3%,（ろ紙血）3,917, 97.7% →M-1m：（母乳）3,470, 86.5%,（児毛髪）3,751 93.5% 月別質問票回収数(6m, 1y, 1.5y) ●フォローアップ維持のための工夫 →督促は、発送後2か月でハガキにて連絡する。通常のサイズより一回り大きなサイズのハガキにし、他の郵便物に埋もれないようにしている。 →H25年の広報活動の焦点をリクルート率向上を目指した一般向け周知から参加者のリテンションに移行。 →独自の「こうちエコチル調査」専用ダイヤルを設置し、参加者及び一般からの質問を受付けている。月に4,5件。 →業務効率化をめざし電子マネー導入手続きを開始。 →疾患情報登録に向け、県内全小児科医へ協力依頼文書を発送し、その後主要医療機関を訪問し実務調整を図った。 →高知独自の暫定データ分析結果を新聞等に公表し地元へ還元した。 →固定データの利用を促進し一般社会への情報還元及び若手研究者の育成を行っている。 生体試料回収数 フォローアップ維持のための工夫	
5	研修	スタッフ研修状況（頻度、内容） ・RC代行研修、管理者研修、高知UCのRC研修を行っている。	
6	コミュニケーション	広報活動実績 ●テレビCM：113本（H25年度） ●テレビ番組：3回（H25年度） ●ラジオCM：18本（H25年度） ●新聞記事掲載：2回（H25年度） ●雑誌掲載：1回（H25年度） ●地域情報誌：2回（H25年度） ●高知県産婦人科医報：1回（H25年度） ●パンフレット：10,000枚 ●イベント参加1回、ブース出展1回、ポスター掲示・リーフレット配付5回 ●ニュースレター「ちよるるんNews」：半年毎 ●H26年2月に3周年イベントを開催予定（1,000人規模のホールにて開催） →産科から小児科へのバトンタッチを目的。 認知度の効果測定等（実施している場合）	○ 広報活動の焦点を参加者リテンション（関係の維持）に移行し、独自の暫定データ分析結果の地元への還元をはじめとして、積極的な広報活動が進められている。
7	その他	その他 特記事項なし。	
8	個人情報	個人情報管理 独自の管理システムにより個人情報管理がなされているが、さらに、コアセンターが示す基本ルールに沿うよう調整中。	
9	現場確認	①データシステムの設置場所、PCのセキュリティ対策 ②同意書の保管場所 ③質問票の保管場所 ④入退室管理方法 ⑤その他の情報漏洩対策 特記事項なし。	

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート

対象：産業医科大学サブユニットセンター

		取組状況	所見	
ユニットセンター		福岡ユニットセンター産業医科大学サブユニットセンター		
大学名（共同機関名）		産業医科大学		
ユニットセンター長		原 寿郎		
調査対象予定人数		2,950人 →平成24年度の評価を受けて、2,700から2,950と目標を引き上げた。		
1	実施体制①	特任教員等の人数	2名	
		事務職員等の人数	4名（1名RCと兼任）	
		リサーチコーディネーター（RC）の人数	16名(1名事務と兼任) →土曜日のみの勤務体制の人も含む。フルタイムに換算すると、8名。 →看護師／助産師の有資格者が多い。 →RCの定着率は、非常に高い。	
		医療機関、行政機関等におけるRC認定の状況	●RC認定状況は累積で60名	
	実施体制②	ユニットセンターの組織図	●協力医療機関数は 15。 →うち4か所は、出産を扱っていないが、妊娠初期の方が来る可能性があるので、協力医療機関として登録している。1か所はリクルート・生体試料採取も実施し、3か所は広報活動のみ行っている。 ●年1回、1月頃に地域運営協議会を開催。 次回は、平成26年1月開催予定。 議題は、年度報告とパイロット調査現況報告を予定している。	
		協力医療機関数とそのリスト		
		地域運営協議会メンバー		
		地域運営協議会開催状況		
2	改善内容	平成24年度評価結果を受けての改善事項や対応状況	①受診した対象者すべてにIC（詳細説明）が行える環境を整備し、さらなるリクルート向上を図った。 ②その結果、上乘せしたリクルート目標数からさらに、40～80人の引き上げは可能。	
3	リクルート	リクルート者数	2,420人（9月30日時点）	○ 昨年度に引き続き、リクルートは順調に行われている。 ○ 平成24年度の第一次中間評価を受けて、全国10万人の目標に向けて寄与するため、リクルート目標数を引き上げた。現状のまま推移すると、平成25年度末時点で、引き上げ後のリクルート目標数をほぼ達成できる見込みである。カバー率は43%程度と予想される。
		調査対象予定人数達成が見込まれる年月	平成26年4月（3月IC、4月同意書受領分まで）	
		同意率・カバー率	②同意率：75.9% カバー率：43%（9月30日時点） ※同意率は「概算」。同意書を渡すタイミングは病院によって異なるため、声掛け数の正確な数を把握するのは難しい。	
		声掛け数	3,190人（9月30日時点）	
		年間出生数（直近1年）	2,352人	
		地域・月・医療機関別参加者数	●リクルート方法 協力医療機関のみ ●カバー率、応諾率向上等のための工夫 →RCの派遣が難しかった3つの医療機関において、オンコール体制（対象者の外来予約日時をあらかじめ調べ、当日RCが説明に行く）、保健指導の活用（妊婦の保健指導時に対象者を集めて1度に説明を行う）などをとり、環境を整えた。	
		リクルート方法（医療機関、行政窓口等）		
		カバー率、応諾率向上等のための工夫		

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート

対象：産業医科大学サブユニットセンター

		取組状況	所見
4	フォローアップ	月別質問票回収率(6m, 1y, 1.5y) ●質問票回収率 →6mで92%、1yで87%、1.5yで78%。 ●質問票発送数 →6mで1,210、1yで723、1.5yで338。 月別質問票回収数(6m, 1y, 1.5y) ●質問票回収数 →6mで1,114、1yで628、1.5yで265。 ●生体試料回収数 →M-T1:(採血) 2,310人 (93.6%), (採尿) 2,294人 (93.0%) →M-T2:(採血) 2,194人 (97.6%), (採尿) 2,189人 (97.3%) →M-0m:(臍帯血) 1,738人 (87.3%), (母体血) 1,918人 (96.4%), (ろ紙血) 1,925人 (95.9%), (母毛髪) 1,929人 (96.9%) →M-1m:(母乳) 1,790人 (94.1%), (児毛髪) 1,823人 (95.0%) →F-T1:(採血) 1,658人 (81.3%) 生体試料回収数 ●フォローアップ維持のための工夫 →以前は電話連絡を行っていたが、電話では効率が悪く、また印象も良くなかったため、平成24年10月より2か月間質問票の返送がなかった参加者については、督促ハガキ・文書による催促を実施している。また2yより、督促時にグッズ配付も同時に行い回収率の向上を目指す予定。 →質問票未返送者については、隔週末、未返送者リストを全RC・スタッフに回覧し、確認や催促を行っている。 フォローアップ維持のための工夫	
5	研修	スタッフ研修状況 (頻度、内容) ・フォローアップに備え、フォローアップが上手くいっている先行研究の講義を受けた。 ・RCが2週に1回、全員が集まり、情報共有等をする時間を設けている。 ・平成25年夏頃より、2週間に1回、上述の集まりとは別に、ざっくばらんに話ができる会を始めた。 ・各協力医療機関に対して、RCの責任者を決めている。	
6	コミュニケーション	広報活動実績 ●ラジオ番組放送 →九州大学サブユニットセンターとの合同で、「エコチルBaby & Kids～未来へのおくりもの～」を制作。毎週1回放送。 ●オリジナル下敷き配付 →母子手帳に挟むオリジナル下敷きを作成し、区役所母子健康手帳窓口にて、挟んで配付してもらっている。 認知度の効果測定等 (実施している場合) ●フォローアップ用ニュースレター(冊子)の制作 →平成25年12月、第1号発行予定。質問票の謝礼・督促状送付とともに、年2回発行・送付予定。 ●フォローアップイベントの開催 ●市役所との広報連携	
7	その他	その他 特記事項なし。	
8	個人情報	個人情報管理 エクセルによる独自の管理システムにて個人情報管理がなされているが、さらに、コアセンターが示す基本ルールに沿うよう調整中。	
9	現場確認	①データシステムの設置場所、PCのセキュリティ対策 ②同意書の保管場所 ③質問票の保管場所 ④入退室管理方法 ⑤その他の情報漏洩対策 特記事項なし。	

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート

対象：九州大学サブユニットセンター

		取組状況	所見
ユニットセンター		福岡ユニットセンター九州大学サブユニットセンター	
大学名（共同機関名）		九州大学	
ユニットセンター長		原 寿郎	
調査対象予定人数		4,650人 →平成24年度の評価を受けて、5,400 から 4,650 に再設定を行った。	
1	実施体制①	特任教員等の人数	4名
		事務職員等の人数	・事務職員 データ専任 1名、事務専任1名
		リサーチコーディネーター（RC）の人数	・RC 専任11名（データ兼務 5名、事務兼務3名） 合計19名
		医療機関、行政機関等におけるRC認定の状況	●協力医療機関スタッフのRCは 36 名
	実施体制②	ユニットセンターの組織図	●九州大学SUCと産業医科大学SUCで、WEB会議を実施している。
		協力医療機関数とそのリスト	●協力医療機関数は 12。 →4つの医療機関に対象者が集中しており、九州大学SUCから常駐RCを派遣 →8つの医療機関は、調査資材を郵送で実施
		地域運営協議会メンバー	●年1回、12月頃に地域運営協議会を開催。 次回は、平成25年12月開催予定。 議題は、調査全体報告と九州大学SUC現況報告を予定している。
		地域運営協議会開催状況	
2	改善内容	平成24年度評価結果を受けての改善事項や対応状況	①平成24年度の状況を踏まえ、達成可能なリクルート目標数を 5,400→ 4,650 に設定した。 ②並行して、協力医療機関の閉院や移転後の状況が落ち着いた後、改めてリクルート数改善のため、ユニットセンターとRC、協力医療機関との密な連携を行い、広報活動も行った。 ③声掛け数、同意率に変動なく、結果として、ほぼ再設定後のリクルート数通りとなっている。カバー率も49%である。
3	リクルート	リクルート者数	3,880人（9月30日時点）
		調査対象予定人数達成が見込まれる年月	平成26年3月
		同意率・カバー率	同意率：75.7%（9月30日時点） カバー率：49%
		声掛け数	5,125人（9月30日時点）
		年間出生数（直近1年）	3,041人（平成24年度）
		地域・月・医療機関別参加者数	●リクルート方法 福岡市は、医療機関で母子健康手帳発行を行うため、各医療機関においてRCがリクルートを行っている。母子健康手帳の発行が決まった時点で、声掛けしている。東区役所には、パンフレット、ポスターを貼っている。 ●カバー率、応諾率向上等のための工夫 ①RCと協力医療機関、ユニットセンターとの密な連携 RC全員に業務用携帯電話を配給し、転院や打ち切り参加者の情報の共有、検体採取にともなう対応の確認、医療機関からの依頼に対して迅速な対応を行っている。 ②協力医療機関内でエコチル調査が認知される状況作り 医療機関の業務の流れに沿ってエコチル調査を行っていただくことで、参加者のご負担を極力軽くするとともに、業務の中にエコチル調査が見えるようにしている（例：母子健康手帳の表紙にカードを入れる、カルテに目印を入れる）。 調査内容を知らせるアイテム（例：カード）などを作成し、運用している。 ③協力医療機関のスタッフの協力 母子健康手帳発行の説明時にエコチル調査の紹介を医療機関スタッフからも行ってもらい、あるいは、RCへ引き継ぎ手順の構築をおこなっている。
		リクルート方法（医療機関、行政窓口等）	
		カバー率、応諾率向上等のための工夫	

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート

対象：九州大学サブユニットセンター

		取組状況	所見
4	フォローアップ	月別質問票回収率(6m, 1y, 1.5y) ●質問票回収率 →6mで91%、1yで86%、1.5yで80%、2yで62%。 ●質問票発送数 →6mで2,471、1yで1,783、1.5yで1,013、2yで375。 ●質問票回収数 →6mで2,244、1yで1,531、1.5yで807、2yで231。	
	月別質問票発送数(6m, 1y, 1.5y)	●生体試料回収数 →M-0m: (臍帯血) 2,761人 (89.6%), (母体血) 2,824人 (91.6%), (ろ紙血) 2,823人 (91.6%), (母毛髪) 3,065人 (99.4%) →M-1m: (母乳) 2,723人 (92.2%), (児毛髪) 2,799人 (94.8%)	
	月別質問票回収数(6m, 1y, 1.5y)	●フォローアップ維持のための工夫 →質問票の返送がない場合、約2か月待って、ハガキで督促を行い、その後2回電話をかけている。子どもの年齢が上がるにつれ、勤務時間内に連絡がつかない事例が増えている。	
	生体試料回収数	→ニュースレター『すくすく えこちるっこ！ふくおか』の活用 質問票の未返送者に、質問票送付リストの抽出後、督促と安否確認も兼ねてニュースレターを送付している。ニュースレターが到着後すぐに質問票が届くことになるので、質問票の返信が期待できると考える。	
	フォローアップ維持のための工夫	→留守番電話や着信に対してコールバックしてくださる方に対して、フリーダイヤルの回線増設を検討中。	
5	研修 (頻度、内容)	・リクルート、フォローアップと、業務別にスタッフ研修を行っている。 ・リクルートに関しては、3-4か月に1回のミーティングおよび事務連絡による研修を行っている。フォローアップに関しては、2週間に1回パイロット調査のフォローアップも兼ねてミーティングを行っている。新規採用者にはDVD（自主学習Eラーニング）による自主学習後修了確認試験を行っている。	
6	広報活動実績	●ラッピングバス →ハーフラッピングバス（2台）、フルラッピングバス（1台） ●雑誌掲載	
	認知度の効果測定等 (実施している場合)	●ニュースレター →『すくすく えこちるっこ！ ふくおか』を九州大学SUCにて年4回程度発行。謝礼送付時に同封して参加者に郵送している。 ●ラジオ番組放送 →産業医科大学サブユニットセンターとの合同で、「エコチルBaby & Kids～未来へのおくりもの～」を制作。毎週1回放送。	
7	その他	特記事項なし。	
8	個人情報	特記事項なし。	
9	現場確認	①データシステムの設置場所、PCのセキュリティ対策 ②同意書の保管場所 ③質問票の保管場所 ④入退室管理方法 ⑤その他の情報漏洩対策 特記事項なし。	

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート

対象：南九州・沖縄ユニットセンター

		取組状況	所見
ユニットセンター		南九州・沖縄ユニットセンター	
大学名（共同機関名）		熊本大学・宮崎大学・琉球大学	
ユニットセンター長		加藤 貴彦	
調査対象予定人数		5,750人 →平成24年度の評価を受けて、6,000 から 5,750 に再設定を行った。	
1	実施体制①	特任教員等の人数	1人
		事務職員等の人数	26人 (熊本14人、宮崎5人、琉球7人)
		リサーチコーディネーター（RC）の人数	16人 (熊本9人、宮崎3人、琉球4人)
		医療機関、行政機関等におけるRC認定の状況	●協力医療機関スタッフのRCは 201 人 (熊本96人、宮崎95人、琉球10人)
	実施体制②	ユニットセンターの組織図	●協力医療機関数は 32。 (熊本17、宮崎8、琉球7)
		協力医療機関数とそのリスト	●サブユニットセンター毎に、運営協議会を組織しており、今年度は各地域で年2回程度開催。 次回は、 平成26年2月、天草地域運営協議会 平成26年2月、水俣・芦北地域運営協議会 平成26年2月、人吉・球磨地域運営協議会 平成26年1月、琉球大学サブユニット運営協議会 を予定している。 平成26年3月、宮崎サブユニットセンター運営協議会 を予定している。
		地域運営協議会メンバー	
		地域運営協議会開催状況	
2	改善内容	平成24年度評価結果を受けての改善事項や対応状況	①出産数の減少及一部の地域の出産が、対象地区以外で出産される状況を踏まえ、リクルート数を 6,000 から 5,750 に修正した。 ②カバー率が悪かった地域には、RCを配置し、マンパワーの見直しを行った。 ③以上の結果、リクルートは概ね順調に経過しており、今年度内に目標数を十分に達成できるペースで進んでいる。
3	リクルート	リクルート者数	4,924人（9月30日時点） →内訳は、熊本 2,593 宮崎 1,546 琉球 785 →平成25年9月末までのリクルート数は、4924名であることから、目標達成までに残り826名（138名/月）のリクルートが必要である。 直近のリクルート状況を鑑みると、平成24年4月～9月の6か月間のリクルート数は976名（163名/月）であり、このペースでリクルートが進行すれば、リクルート終了期限までにリクルート目標数を達成することが可能である。
		調査対象予定人数達成が見込まれる年月	熊本 平成26年2月末 宮崎 平成26年3月末 琉球 平成26年2月末
		同意率・カバー率	②同意率：84%（直近1年） 熊本 86%、宮崎 78%、琉球 87% カバー率：56%（直近1年） 熊本 54.4%、宮崎 57.6%、琉球 55.9%
		声掛け数	2,355人（直近1年）
		年間出生数（直近1年）	3,547人（平成24年9月～平成25年8月）

○ 平成24年度の第一次中間評価における指摘事項を受け、カバー率が悪かった地域にリサーチコーディネーターを配置するなど、対応の努力が行われたと評価できる。

○ 第一次中間評価を受けて、リクルート目標数を現実的に達成可能な数に見直した。現状のまま推移すると、平成25年度末時点で、修正後のリクルート目標数を達成できる見込みである。カバー率は56%程度と予想される。

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート

対象：南九州・沖縄ユニットセンター

		取組状況	所見
	地域・月・医療機関別参加者数	●リクルート方法 熊本： 協力医療機関にてリクルートを行っている。 宮崎： 母子健康手帳発行する市役所窓口、及び協力医療機関の両方で、リクルートを行っている。 琉球： 母子健康手帳発行する平良保健センター、及び協力医療機関の両方で、リクルートを行っている。	
	リクルート方法（医療機関、行政窓口等）	●カバー率、応諾率向上等のための工夫 熊本： ①カバー率が低い地域の1医療機関に新たに専任RCを追加雇用した。その結果、声掛けの漏れが少なくなり、リクルート数が伸びた。 ②平成25年2月より母子健康手帳発行窓口にて全妊婦に熊本SUCのチラシ入り紙バックを渡すとともに、保健師からエコチル調査に関する簡単なお知らせを加えるように徹底した。	
	カバー率、応諾率向上等のための工夫	宮崎： ①市役所窓口での説明を工夫する 独自作成資料と ipad を使用し、興味を喚起しながら説明する。 参加のメリット（生体試料検査結果返却、アレルギー検査など）を説明する ②協力医療機関の医師による説明及び協力依頼を行う。 琉球 ①当初は、平良保健センターにて母子健康手帳発行時にリクルートを行っていたが、リクルート目標数（25人/月）に達していなかったため、妊娠証明書の発行数が多い医療機関に専任RCを配置した。その結果、平成25年3月より応諾率が向上し、リクルート目標数も達成できている。	
4	フォローアップ	●質問票・生体試料回収率 6m 熊本 89.3%、宮崎 91.8%、琉球 81.4% 1y 熊本 83.0%、宮崎 87.3%、琉球 78.4% 1.5y 熊本 78.5%、宮崎 76.3%、琉球 78.2% 臍帯血 熊本 94.3%、宮崎 84.0%、琉球 88.4%	
	月別質問票発送数(6m, 1y, 1.5y)	●フォローアップ維持のための工夫 熊本 ①質問票発送日より約2週間後、質問票未回収者に督促ハガキを送付。 約2週間後に、督促ショートメールを送信。 約2週間後に、再度督促ショートメールを送信 （※督促ハガキについては、平成25年10月半ばより「約2週間後」→「約1か月後」に延期した。）	
	月別質問票回収数(6m, 1y, 1.5y)	②質問票回答者へのグッズを送付（1年毎） 1y 質問票回答者 ロングエプロン 2y 質問票回答者 エコバック 今後、 3y 質問票回答者には「くまモングッズ」、 4y 質問票回答者には「保育用今治タオル」を配布予定	
	生体試料回収数	宮崎 ①乳幼児健診時に、質問票未回収者に声かけを行い、協力依頼を行う。 ②誕生日に合わせて粗品を進呈する。 ③質問票の催促については、熊本SUCと同様にハガキとショートメールで行っている。	
	フォローアップ維持のための工夫	琉球 ①ベビーマッサージ、産後ヨガ教室・参加者同士の交流会を4か月に1度開催。 ②クリスマスカードや暑中見舞いの発送を行っている。 ③誕生日プレゼントとして、謝金と一緒に記念品を郵送している。（1年毎） ④質問票の催促については、熊本SUCと同様にハガキとショートメールで行っている。	
5	研修	スタッフ研修状況 （頻度、内容）	3,547人（平成24年9月～平成25年8月）

平成25年度エコチル調査 年次評価ヒアリングシート
対象：南九州・沖縄ユニットセンター

		取組状況	所見
6	広報活動実績	●健康フェスタへの参加（熊本） →健康フェスタの中で、エコチルのブースは人気が高い。保健所から来年も参加してほしいと要望がある。 →人気の高い理由は、デコポンちゃんに（顔を入れて）写真撮影。風船の配布、魚釣りゲーム、素肌美人（肌年齢チェック）のコーナーを設けている。 ●市民公開講座（宮崎）（琉球） →アンケート結果から、参加してよかった、何度も開催して欲しいなど、評判がとても良い。	
	認知度の効果測定等（実施している場合）		
7	その他	特記事項なし。	
8	個人情報	特記事項なし。	
9	現場確認 ①データシステムの設置場所、PCのセキュリティ対策 ②同意書の保管場所 ③質問票の保管場所 ④入退室管理方法 ⑤その他の情報漏洩対策	特記事項なし。	